

## 事項六 对中国借款關係雜件

- 一 興亜公司借款
- 二 交通銀行借款
- 三 広東省セメント廠借款
- 四 中日実業關係借款

### 一 興亜公司借款

四三四 八月十一日

菅原大蔵次官ヨリ  
小池政務局長宛

興亜公司ノ对中国政府借款交渉ニ付早川三井

銀行取締役發電報ヲ送付ノ件

附屬書

八月十日早川三井銀行取締役發若本秀雄宛電報

写

附記

一 八月五日興亜公司及陳財政總長間ニ締結シタル借款仮契約ニ付外務、大蔵当局等協議要領

二 右仮契約書写

(八月十一日接受)

拝啓陳者陳總長交渉借款ニ関シ早川發電写及御送付候間御査収相成度此段申進候也

ハ必スシモ二千万円ト限ラズ三千万円ニテモ五千万円ニテモ日本ハ責任ヲ負ウテ出来ルタケ急速ニマトムルヤウ尽力スヘシ若シ又何処迄モ右様ノ取計出来難シトノコトナレハ飽迄モ実業借款ノ形ヲ備フルヤウニナスコトヲ必要トスルニツキ太平山採掘権ノ譲与ニ何万円水口山ニ何万円其他某某鉱山ニ何万円ト云フコトニスルコトヲ要スヘシ但シソレニテハ金額モアマリ多クスルコトヲ得ザルヘキニ付其他ノ利権又ハ担保タトヘハ漢冶萍公司政府持株又ハ招商局政府持株或ハ其他ノ財産等ヲ提供スルコト、セハ大体ニ於テ実業借款トシテ取扱フコトヲ得ヘキカト思ハル当方ニテハ以上二案ノ内何レニテモ苦シカラス又二案ヲ併用スルモ差支ナシ尚此外ニ支那側ニ於テ良案アラハ申出サレタシ迅速詮議スヘシ

以上ハ日本政府当局ニ於テモ大体異議ナキモノト信ス

(附記一)

大正五年八月五日大蔵省ニ於ケル三井關係對

支借款ニ関スル協議会要領

支那財政總長陳錦濤ト三井ノ關係セル興亜公司トノ間ニ締結セラレタル別紙仮契約ノ有効期限ハ既ニ満了セルモ交渉

六 对中国借款關係雜件 (一) 四三四

八月十一日

菅原大蔵次官

小池政務局長殿

(附屬書)

八月十日早川三井銀行取締役發若本秀雄宛電報写

本件借款ハ陳錦濤ニ於テ政治借款ニアラズト明言スルモ五國銀行団ヲシテ右ノ如ク納得セシムルコトハ甚タ困難ナリト思ハル当然政治借款ト思ハル、モノヲ銀行団ニ計ラズシテ支那政府ト交渉スルコトハ日本将来ノ立場ヲ困難ナラシムルモノナリ此点先ヅ陳錦濤ニ了解セシムルコトヲ要ス而シテ当方ニ於テハ何処迄モ支那政府ノ急ニ応シ出来得ル限りノ財政上ノ援助ヲ与ヘタキ考ナルニ付若シ此際支那政府ニ於テ政治借款トナスモ差支ナシト決心スルニ於テハ金額

ノ結果尚一週間延期スルコトト成リタル趣ニテ右契約ノ実行方ニ関シ大正五年八月五日大蔵省ニ於テ協議会ヲ開ク列席者左ノ如シ

菅原大蔵次官、神野理財局長、小池政務局長、井上正金

銀行頭取、水町日本銀行副總裁、早川三井銀行取締役、

一、本借款ハ政治借款ナルヤ否ヤニ付

小池局長ハ借款ノ目的記載シアラサルカ故ニ明カニ政治借款ト認ムヘキモノナル旨述ヘタル処早川取締役ハ本借款ノ一部ヲ中国銀行ニ支払フ次第ナルニ付政治借款ニ非スト解釈スルコト出来サルヤト述ヘタルモ右ハ支那政府カ中国銀行ヨリ政費トシテ借受ケタルモノ、償却ナルヤモ図ラレサルカ故矢張り結局政治借款ト認メサルヲ得サルヘシトノコトニ一決ス

二、日本単独ニテ引受ケ得ヘキヤ否ヤニ付

小池局長ハ右ノ如ク政治借款タル以上六國団規約ノ關係上日本カ単独ニテ引受クルヲ得スト説キタル処菅原大蔵次官及早川取締役ハ正金銀行ハ日本資本団トシテ六國団規約ノ拘束ヲ受クヘキモノナラムモ三井銀行ハ同団体ニ加入シ居ラサルカ故ニ三井ノ名義ヲ以テ借款ニ応スルコト出来サル

三八三

ヤト述ヘタルモ如斯キハ本件三井借款ヲシテ曩ノ「クリスプ」借款ノ關係ニ立タシムルモノニシテ三井ハ政府ノ保護ヲ受クル能ハサルコトナルヘキノミナラス日本ハ今ヤ四国団ヲ指導スルノ地位ニ在リ而シテ自カラ無理ナル解釈ヲ為シ団体規約ヲ無視スルノ措置ニ出ツルコトハ将来ノ為ニモ決シテ得策ニ非ストノ説ニ一決ス

## 三、本借款ニ応スル方法ニ付

小池局長ハ前記ノ次第ナルニ付本借款ニ関シテハ日本側ヨリ先以テ四国団ニ協議シ英仏露三国資本家ニ於テ借款ニ応セサル場合ニ初メテ日本側単独ニテ引受クルコトトシ若シ又右三国側ニ於テモ是ニ応スル場合ニハ或ハ均分ニ出資スルトモ或ハ日本側ニ於テ大部分ヲ出資スルトモ其ノ時ノ状勢ニ依リ定ムルコトトシ一面支那側ニ対シテハ日本側ヨリ本件借款ハ四国団ニ提議スヘク其ノ結果ハ協同借款トナルカ或ハ日本側単独ノ借款トナルカ不明ナルモ何レニシテモ我方ニ於テ責任ヲ以テ本借款ヲ成立セシムヘキ旨ヲ通告シ彼ニ安心ヲ与ヘ他面四国団ニ対シテモ可然協議ヲ進ムルコトトシテハ如何ト述ヘ一同此ノ説ニ賛成シタルガ早川取締役ハ右ニ関シ四国借款トナスニ於テハ支那側ハ到底二千万

支那側モ必ス好意ヲ以テ是ニ応スヘク殊ニ支那一流ノ贈賄等裏面ノ運動モ随分効ヲ奏スルコトナレハ本件借款ヲ四国団ノ問題トナシ協同借款トスルトモ是等利権獲得ノ途ハ種々アルヘシト述フ

## 五、借款担保ニ付

小池局長ハ仮契約ニ掲ケタル担保物件中礦山經營權ハ価値アルモ鐵道收入ノ方ハ英國側トノ關係モアリ必スシモ重要視スルニ足ラザルヲ述フ

尚本借款ヲ四国借款トナスニ於テハ彼ノ塩稅收入ハ尚五百萬元以上ノ剩余アル次第ニ付自然是ヲ以テ本借款ノ担保ニ充ツルカ如キ形勢トナラザルカ、左スレハ先般來帝國政府ヨリ英國政府ニ申入レ日本ヨリ將來支那ノ借款ニ関シ顧問ヲ出スコトニ内々承諾ヲ得タル行掛リ水泡ニ帰スル虞ナキヤトノ説アリタルモ政務局長ノ説明ニヨリ今回ノ借款ハ曩ノ支那革命善後借款トハ全然性質ヲ異ニスルカ故ニ必スシモ塩稅收入カ担保ニ供セラルヘシトモ限ラス況ヤ支那側ニ於テハ歳入ノ増加ニ付百万苦心シ居ル此際ノコトナレハ或ハ反テ他ノ財源例ヘハ地租ノ如キモノヲ担保ニ入レ而シテ日本人顧問ヲ傭聘シ改革ヲ施シ之カ增收ヲ計ルコトトスレ

元位ニテハ満足セザルヘシト述ヘタルモ小池局長ハ右ハ介意スルニ足ラズ此ノ機會ニ於テ支那政府ヲシテ結局今後時局收拾ノ為幾何ノ借款ヲ為セハ足ルヤヲ言明セシムルモ亦可ナルヘシト述フ

尚支那側ニ於テハ国会開會ノ後トモナラハ種々ノ故障起ル虞モアリト本件借款ノ急速ニ成立セシコトヲ希望シ居レリトノ話出デタルモ果シテ然ラハ仮リニ国会開會前ニ於テ日本単独ニテ本件借款ヲ引受クルコトニ契約成立スルトモ他日国会開會ノ後議員等ノ激烈ナル反對ヲ見ルカ如キコトアリテハ日本ノミ独リ惡者トナリ折角贏チ得タル支那ノ人心ヲ再ヒ失フノ結果トナルヘク此ノ点ヨリ見ルモ益々以テ予メ四国団ト相談ヲ遂グルノ要アルヘシトノコトニ協議一致ス

## 四、利権問題ニ付

早川取締役ハ四国借款トスルニ於テハ仮契約ニ依リ折角獲得スルコトトナリ居ル種々ナル利権ヲ失フヘキヲ説キタルガ小池局長ハ是等利権ハ他ノ方法ニテ獲得スルコト必ズシモ困難ナラザルヘキカト思ハル且本借款ハ日本ガ主動者トナリテ成立セシムル次第ナレハ今後我方ノ希望ニ対シテハ

ハ支那政府ニ取リテモ都合ナルヘク旁以テ新担保ヲ提供セシムルコト必スシモ困難ナラザルヘシトノ説ニ一致ス

協議ノ結果以上ノ趣旨ニ決定シタルニ付三井ニ於テモ其

ノ方針ヲ以テ進ムコトトナリタリ

## (附 記二)

陳財政總長及興亞公司間借款仮契約書

一、借款壹千万銀円乃至貳千万銀円以上

二、壹千万円ノ時ハ百円ニ付キ手取り九拾參円、若シ貳千万円ノ時ハ百円ニ付九拾壹円

三、利息年七分

四、借款契約成立ト同時ニ全額ノ二割ヲ受取ル事契約後四週内ニ再ヒ全額ノ三割、其後六週内ニ全額ノ二割其ノ余ハ九週内ニ殘金全部受取ル事延期スルコトヲ得ズ

五、此借款ハ北京ニ於テ受授ス而シテ北京洋銀相場ヲ以テ計算ス

六、借款成立ヨリ貳年間ハ利息丈ケヲ支払ヒ三年ヨリ八年

目ニ到ル六年間ニ元利金ヲ年度平均ニテ悉皆支払フ事

七、本借款ノ担保トシテハ礦山事業ノ合弁ヲ許可シ附録記載ノ各礦山ノ採掘并ニ鉱產品販売等一切經營ヲ中國政府

定ムル処ノ鉱業規則ニ依リ日支平等ノ權利義務ヲ以テ組織スル事ノ一切ヲ担保トスル事

八、右鉱山事業担保ノ外副担保トシテ京張鐵道(北京張家口間)張綏鐵道(張家口綏遠城)ノ收入ヲ契約ス

但借款一千万円ノ時ハ京張鐵道ノミヲ副担保トシ二千万円ノ時ハ則チ京張綏兩鐵道ヲ提供ス

此鐵道担保ハ臨時的ノモノニシテ則チ礦山事業全部成立ノ上ハ鐵道副担保品ハ消滅スルモノトス而シテ副担保ノ件ハ其期內ハ發表セサルモノトス

若シ礦山事業不測ノ理由ニ依リ開業シ能ハザルトキハ副担保品ヲ正担保ト定ム

九、借款償還期ニ際シ中国政府ニ於テ止ムヲ得ザル困難ノ事情アリ元利償還遲延シタル場合ハ日本公司ハ最長六ヶ月間ヲ期トシ其支払ヒヲ猶予ス其六ヶ月以内ニ於テ担保ノ權利ニ藉リ直ニ鐵道ニ干涉セザルモノトス

附錄

十、安徽省太平府鉄鉱山ノ採掘并ニ礦石ノ販売處理一切ノ權

十一、湖南省水口山礦山採掘并ニ礦石販売處理一切ノ權

右借款ハ政治借款ト認メサルヲ得スト決シタルモ陳錦濤ハ政治借款ト認メサル趣ニテ再三往復ヲ重ネタル結果陳ニ於テモヨク我方ノ趣旨ヲ了解シ結局政治借款ニテモ實業借款ニテモ何レニテモ都合ヨキヤウニ致スヘキモ本件ニ付テハ競争者アル趣ニテ至急話ヲ取纏メ且前渡金ヲ受ケ度キ旨申出テ本件交渉ノ為日本側ヨリ代表者派遣方希望シ来レリ仍テ八月十二日早川ヨリ支那側ニ対シ当方ヨリ全權委員ヲ即時派遣スヘキ旨並ニ本件借款ハ日本側ニ於テ責任ヲ帶ヒテ成立セシムヘキニ付競争者ノ方ハ一切差止メ置カレ度又前渡金トシテ太平水口兩鉱山合辦採掘權ニ対シ相当金額何時ニテモ支出スヘク尚招商局政府持株等ヲ担保トセハ更ニ多額ノ支出ヲ詮議スヘキ旨電報セリ

本件ハ支那側ニテハ財政部員黃元蔚日本側ハ在貴地岩本秀雄是迄其ノ衝ニ当レリ詳細ハ岩本ヨリ貴官ニ報告スル筈

(別電)

八月十二日石井外務大臣宛在中國小幡臨時代理公使宛  
興亜公司及陳財政總長間借款仮契約内容

第三一三三号

十二、以上兩礦山合併決定ニ際シテハ一定ノ地域ヲ定メ無制限トスルヲ得ス其地域ハ中日兩方ニ於テ協議シテ定ム

十三、以上ノ礦山ノ間一部分ハ既ニ民間ニ許可シタル個所アリ将来合辦公司ト民間ト合辦相談等ノ必要アル場合ハ中国政府ハ正當ノ助力ヲ与フルモノトス

十四、以上ノ議定書ハ本日ヨリ起算シ三週間ヲ有効期限トス

中華民國五年七月十二日 財政總長 陳錦濤(印)  
日本大正五年七月十二日 興亜公司(印)

四三五 八月十二日 石井外務大臣ヨリ  
在中國小幡臨時代理公使宛(電報)

興亜公司対陳財政總長借款仮契約ニ付内報ノ件

別電 同日石井外務大臣宛在中國小幡臨時代理公使宛

電報第三一三三号

右借款仮契約内容

第三一二号

七月十二日早川千吉郎ノ關係セル興亜公司ト陳錦濤トノ間ニ大要別電第三一三三号ノ如キ借款仮契約締結セラレ右有効期限ハ八月八日迄ナリシ趣ノ処当方關係各方面協議ノ結果

借款仮契約要領、(一)金額一千万銀円又ハ二千万銀円以上、

(二)手取一千万円ノトキハ九十三、二千万円ノトキハ九十一、(三)年利七分、(四)据置二ヶ年三年目ヨリ向フ六年間ニ年

度平均ニテ皆済ノコト、(五)担保安徽省太平府鉄鉱山及湖南省水口山鉱山ノ採掘並鉄石ノ販売處理一切ノ權但シ鉄業条例ニ依リ合辦トスルコト又京張鐵道及張綏鐵道ノ收入ヲ副担保トシテ提供スルコト但シ右ハ鉱山事業全部成立ノ上ハ消滅スルモノトス

四三六 八月十六日 石井外務大臣ヨリ  
在中國林公使宛(電報)

興亜公司对中国借款中差当り實業借款ニ相当スル分成立サセタキ考ナル旨通報ノ件

第三一三三号

往電第三一二二号ニ関シ其後支那側ト往復ノ結果支那側ニテハ差向キ約二千万円ヲ要スル趣ノ処政治借款ト實業借款トハ飽クマテ區別セサルヲ得サルニ付政治借款ノ嫌アル分ハ暫時別問題トシ此際太平水口兩鉱山ノ合辦經營ヲ目的トスル實業借款ノミヲ訂結スルコトトシ右ニ付テハ兩鉱山ヲ日支合辦トシ支那側出資ニ充ツヘキ金額ヲ日本側ヨリ融通シ

其幾部分ヲ政府ガ他ノ目的ニ流用スルコトハ余リ多額ニ上ラサル限リ暫ク黙過スルコト、スル考ナリ尤モ右両鉱山ノミニテハ精々四、五百万円ヲ限リ貸付得ルニ過キサル故支那側ノ更ニ多額ノ要望ハ之ヲ将来ノ大借款ノ方ヘ話ヲ向ケ行ク積リナリ本件ニ付早川側代表者トシテ永浜盛三八月十六日出発貴地ニ向フ筈ニ付委細同人ヨリ御聴取リ相成同人申出ニ応シ可然援助ヲ与ヘラレ本件成立方御尽力アリタシ

四三七 八月二十五日

菅原大藏次官ヨリ  
小池政務局長宛

興亜公司ノ对中国借款交渉進捗状況北京ヨリ  
通報越ノ電信寄送付ノ件

附屬書

在北京永浜代表ヨリ早川千吉郎宛電報亨

拜啓永浜ヨリノ電報別紙御覽ニ供候電文不明問合等ニ手間取り候為遅延仕候御了承被下度候 勿々

八月廿五日

菅 原 生

小池賢台

(附屬書)

在北京永浜代表ヨリ早川千吉郎宛電報亨

借款モ速カニ締結スヘキ様林公使ヨリ談スヘシトノ事ニテヨクヨク林公使ニ<sup>キイシ</sup>置キタリ右先方ト林公使ト協議ノ期日ハ未定ナルモ其結果分リ次第電報スベシ

四三八 八月二十五日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司对中国借款ノ担保トセントスル太平

山、水口山両鉱山ニ関スル件

第七六二号

貴電第三二三号早川借款ノ条件タル両鉱山合辦經營ノ件ニ関シ当地ニ於テ取調ノ結果太平府鉄鉱ノ大部分ハ先年福民及利民ト称スル兩支那会社ニ於テ其採掘權ヲ得タルヲ森恪及小柴英侍ノ兩人ノ名義ニテ礦石專売ノ契約ヲ締結シ更ニ本年七月森恪ノ紹介ニ依リ南京ニ於テ三井礦山会社代表者ト前記兩会社トノ間ニ礦石專売契約及将来其事業ヲ合辦經營トスル密約ヲ締結シアル趣(南京領事ヨリ本省へ報告済)ナルヲ以テ今回ノ借款ノ条件トシテ仮令支那政府ヲシテ日支合辦トスルコトヲ約セシムルモ關係当事者間ニ於テ既ニ合辦經營ヲ密約シ居ル以上支那政府ノ約スル合辦經營ナルモノハ關係者ノ承諾アラサル以上事実不可能ニ了ルヘク將

大正五年八月廿四日接受

永 浜

早川千吉郎宛

当地着直ニ公使ト小田切ト打合セ交渉始メタルニ好都合ニ進行シ本日段祺瑞陳錦濤協議ノ結果左ノ通り回答アリ五百万円借款ニ関スル条件ハ全部承諾ス其代リニ政治借款ニ関スル斡旋ハ何処マテモ興亜公司ニ信頼スル故五千万円ヲ八千万円ニ増スコトヲ得ハ担保物ノ選定其他ノ条件ハ全部公同ノ適當ト認ムル所ニヨリ然ルヘク配慮ヲ頼ム八千万円ハ時局收拾上必要ナレドモ差当リテハ四五千万円ニテモヨシ唯此際全額ノ約束ヲ結ヒ置クコトヲ望ム然ル時ハ支那政府ハ外国ニ頼ム必要ナク且時局收拾上安心ナリ斯クナレハ国会モ大賛成全国日本ノ厚意ヲ感シ日支親善ノ大策ヨリ打算ヨリ其ノ厚意ニ報ユルノ主意ヨリ右ノ通り決心セリトノ誠意ナル挨拶アリタルヲ以テ当方ハ本邦ノ利益ニ対シ勉メテ斡旋スヘキ旨即答シ林公使ニ協議シタルニ政治借款ハ外国公使及ヒ四国団ニ協議ヲ要スルコトガラナレハ興亜公司ガ仲立スルヨリモ先方ヲシテ林公使ニ協議セシムル様興亜公司ヨリ取扱ガ宜シクサスレハ先方ノ安心スル様且五百万円

又既ニ右ノ如ク日本人ト權利關係ヲ結ビ居ル鉱山ニ対シ横合ヨリ手ヲ出スコトハ将来紛争ノ種子トナルヘキコトモ亦予メ承知シ置カサルヘカラス或ハ此際是非該鉱山ヲ合辦トナスコトニ支那政府ノ同意ヲ取附ケ置クラ必要トセラル、ナラハ一応三井鉱山会社及森恪等ノ關係者ト打合ノ上ノコトニスル方至当ナラント考フ右ノ事情ハ早川氏ハ勿論本省及大藏省ニ於テ十分御承知之ナキカトモ考フルニ付一応御審査アル様希望ス又水口山亜鉛鉱ハ從來ヨリ湖南省官有ノ様伝ヘラルル処今回支那当局者ニ於テ如何ナル成算アリテ日本側ニ合辦經營ヲ承諾シタル次第ナルヤハ明カナラサルモ聞ク所ニ依レハ該鉱ハ袁世凱時代ニ中央政府ノ官有ニ移サント試ミタルコトアルモ常ニ省民ノ反対アリ其ノ実行ヲ見合セタル由ナレハ本件モ愈々其ノ実行ヲ期スルニハ幾多ノ困難アルヘシト察セラル從テ右兩条件ハ今回ノ借款ニ附帶スル実業上ノ concession トシテ頗ル不確実ノ点アルヤニ存セラル或ハ他ニ適當ノ事業ヲ見附ケ之ニ換フルモ一案ナランカ場合ニ依リテハ水口ノ分丈ハ支那側ニ於テ同意スルニ於テハ一応合辦ノコトニ取極メ置キ其ノ成否ハ兎モ角トシ合辦実行ノ責任ヲ支那政府ニ一任シ此ノ借款ヲ成立セ

シムルモ一案ナラム之ヲ要スルニ借款ノ商議ハ目下漸次進行中ノ模様ニテ或ハ早晚成立ノ運ニ至ルヤモ計ラレサルニ付テハ将来鉱山ニ關スル条件ニ關シ実行ノ曉多少ノ紛議ト困難トアルコト丈ハ予メ御承知置相成リタシ

四三九 八月二十六日 小池政務局長ヨリ  
菅原大藏次官宛

興亜公司对中国借款担保鉱山ニ關スル林公使ヨリノ電報写送付ノ件

拝啓陳者林在支公使ヨリ早川氏關係借款ノ条件タル太平水口兩鉱山ノ件ニ關シ別紙写ノ通電報有之候ニ付御参考迄右茲ニ供貴覽候尚右兩鉱山ト既ニ關係アル向々トノ話合ハ一切早川氏ニ於テ引受処辦スヘキコトハ御承知ノ通り予テ同氏ニ申入置候通りニ有之候ヘ共尚別紙ノ次第モ有之候ニ付其辺充分配意ノ上遺算ナキヲ期スル様此際同氏ヘ更ニ御注意置相成度希望致候右不取敢得貴意候 敬具

註 別紙ハ前出林公使來電第七六二号写ナリ

四四〇 八月二十九日 石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

ヲ請フ又本契約ヲ速成スルハ段總理ノ決意ニ依ルトノコトナリ

(附記)

九月九日及十日在北京永浜興亜公司代表發早川三井銀行取締役宛電報(一)(二)(三)(四)  
興亜公司実業借款契約調印済及其内容等ニ關スル件

(一)

九月九日 二一、一五北京宛  
同 十日 午前二時着

至急

契約今済ンダ要領後電報ス

(一)

九月十日 午前一時十分發  
午前九時廿分着

調印済ノ契約要領左ノ如シ但シ貴下マテ秘密ニ願フ

第一 本契約借款高五百万円、手取九十四、利子六分、

期限三年

調印ノ日ヨリ五日以内ニ全額横浜ニテ受渡シ、指定

銀行ハChartered Bank of I. A. & C, International

Banking Corporation 各半額、借款ハ太平、水

口ノ鉱業ニ使用スルコト

六 对中国借款關係雜件 (一) 四四一

中国政府ヨリ大政治借款ニ關シ我方ニ申出ツル模様ナルヤ問合セノ件

第三三四号

水口山太平山合辦五百万円実業借款ニ關スル在貴地永浜發早川千吉郎宛電報ニ依レハ日本ノ斡旋ニ依頼スヘキ大政治借款ハ支那側ニ於テ急速我方ヘ申出ツルモノナルヤニ解セラルル処果シテ右様ノ模様アリヤ電報アリ度シ

四四一 九月十日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司ノ对中国五百万円借款契約調印ニ關シ報告ノ件

附記

九月九日及十日在北京永浜興亜公司代表發早川三井銀行取締役宛電報(一)(二)(三)(四)  
興亜公司実業借款契約調印済及其内容等ニ關スル件

第八〇四号

過般來交渉中ノ興亜公司ト支那政府トノ五百万円借款契約ハ公司ノ代表者永浜及本田ト支那側ノ代表者陳財政總長及谷農商總長トノ間ニ九月九日ヲ以テ調印セリ金額五百万円ハ五日以内ニ横浜ニ於テ払渡ス約束ナリ此ノ点殊ニ御注意

第二 附帶契約水口山ハ合辦トシ湖南官鉱局ト協議シ是

カ経営実行ニ關シ支那政府責任ヲ負フ

太平山ハ技術顧問ヲ日本ヨリ聘シ、利益ハ平分鉱産物ハ支那政府ノ必要額以外ハ日本ニ輸出スルコト、

大政治借款成立ノ日迄ニ、若シ支那政府実業借款ヲ

起サントスル時ハ便宜尽力スルコト

(二)

九月十日 午前一時十分發  
午前八時四十五分着

借款契約附帶秘密契約要領左ノ如シ

之レハ極秘密ニ願フ

一、借款ノ用途ハ干涉セス

二、興亜公司ハ支那政府ノ為メ、八千五百万円ノ政治借款ヲ三ヶ月内ニ成立ス可キ様尽力ス

但シ無理ナル条件主張ノ為メ不成立トナルコトハ、興

亜公司責任ヲ負ハス

三、政治借款不成功トナリタルトキハ、支那政府ハ水口山太平山事業経営ノ責任ヲ免ガル

四、此借款五百万円ハ政治借款成立ノ時償還ス

五、若シ政治借款故障ノ為メ六ヶ月ヲ過ギ成立セザルトキ

六 对中国借款關係雜件 (一) 四四二

ハ支那政府ハ相当ノ財源ヲ提供シテ此借款ノ担保トナス

(四)

九月十日 午前一時十分發  
午前八時 着

「コンミッシヨシ」三拾万円十一日コノ地ニテ受取ル様至急電為替頼ム、ダンダン増額ハ、此地事情止ムヲ得ズ、御含ミ願フ

四四二

九月十一日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司ノ对中国借款契約ハ杜撰ノ点鈔カラザルモ契約通り借款金額引渡ヲ実行セシメタキ旨稟申ノ件

第八〇六号

往電第八〇四号興亜公司借款ハ契約細目ニ付何等当館ニ議スルコトナク又調印前本使ノ同意ヲ得ス急遽調印ヲ了シタルモノナルガ我關係者ニ於テ斯ク取急キタルハ往電第七六二号三井及湖南官憲トノ關係ニ顧ミ事ノ紛糾セサルニ先チ一氣ニ成立セシメント焦リタルカ為ナルヘシト察セラル九月十一日關係書類ヲ提出セシメ一応審査ヲ遂ケタルニ契約

四四三

九月十一日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛

興亜公司对中国政府借款契約写送付ノ件

附屬書 右借款契約写

機密第二五二号

(九月十八日接受)

大正五年九月十一日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本月九日興亜公司代表者ト支那財政農商兩總長トノ間ニ五百万円借款ニ付契約ヲ締結シタル次第ハ早速及電報置候処右契約日漢文写茲ニ及送付候也

(附屬書)

興亜公司对中国政府借款契約写

実業借款契約

大中華民國政府(以下単ニ甲ト称ス)ハ大日本帝國興亜公司(以下単ニ乙ト称ス)ヨリ金額五百万円也ヲ借入ル、ニツキ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一条 本借款金額ハ日本金貨五百万円也トス但シ甲ノ手

六 对中国借款關係雜件 (一) 四四三

三九二

ハ本契約一通及附帶秘密契約二通ヨリ成リ内容杜撰ナル点鈔カラス例ヘハ(一)附帶契約ハ秘密ニ附スルコト、ナリ居ルニ拘ハラス本契約中ニ附帶契約ノ存在ヲ表示シタルコト(二)附帶契約中水口山ヲ日支合辦トナスコト太平洋山ヲ日本ノ資金ニテ支那之ヲ經營スルコトノ規定アルモ本契約中何等担保ノ規定ナキコト(三)本契約ニハ実業借款ヲ標榜シタルモ附帶契約中興亜公司ハ本借款資金ノ用途ニ付一切干涉セサルヘキヲ規定シタルコト(四)附帶契約中興亜公司ハ三ヶ月以内ニ目下交渉中ノ政事大借款ノ成立ニ付責任ヲ負フコト竝右不成立ノ場合ニハ支那政府ニ於テ水口山太平洋山ノ事業ニ對スル責任ヲ免カル、コト等ノ規定アルコト是レ重ナルモノナリ

前述ノ通今回ノ契約ハ稍不満足ナルモノナルモ調印後五日以内ニ借款金額全部ノ受渡ヲ完了セサルトキハ無効タルヘシトノ規定アルノミナラス本使ニ於テ曩ニ財政總長ニ向テ本借款ヲ懲通シタル行懸モアルニ付關係者ヲシテ是非期限内ニ金額引渡ヲ実行セシムル様致シタシ將又本借款ニハ財政農商兩總長ノ調印シタル關係モアリ結局元金及相当利子丈ハ如何ナル場合ニモ回收シ得ヘシト認メラル為念申添フ

取金ハ金百円ニ對シ金九拾四円トス

第二条 本借款ハ太平山及ビ水口山ノ兩鉱山經營ノ資金ニ充ツルモノトス

第三条 本借款ハ本契約署名調印ノ日ヨリ起算シ五日以内ニ其金額ノ受渡ヲ為スコク其交付及償還ノ場所ハ共ニ横浜トシ其銀行ハ甲ニ於テ之ヲ指定ス

若シ前項ノ期限ヲ經過シ尚借款金額全部ノ受渡ヲ完了セサルトキハ本契約及附帶契約ハ無効トス

第四条 本借款ノ利率ハ年利六分即チ金百円ニ對シ年利六円トシ本契約署名調印ノ日ヨリ起算シ各半年毎ニ甲ヨリ乙ニ支払フモノトス

第五条 本借款償還期限ハ本契約署名調印ノ日ヨリ起算シテ滿參年トス

但シ期限到来前ト雖モ甲ハ隨時償還ヲ為スコトヲ得  
第六条 本契約書ハ日支文各式通ヲ作成シ甲乙各各通ヲ保有ス但シ解釈上疑義ヲ生シタルトキハ支那文ニ拠ルモノトス

大日本帝國大正五年九月九日即  
大中華民國五年九月九日

三九三

六 对中国借款關係雜件 (一) 四四三

大中華民國 財政總長 陳 錦 濤  
農商總長 谷 鍾 秀  
大日本帝國興亜公司代表 永浜盛三  
代表 本田親清

(右漢文)

實業借款合同

大中華民國政府 (以下簡稱曰甲) 向大日本帝國興亜公司 (以下簡稱曰乙) 借日金五百萬圓茲訂定條約如左

第一條 本借款金額為日本金幣五百萬圓但每百圓實收九拾四圓正

第二條 本借款為經營太平山水口山鉦業之資金

第三條 本借款自本合同署名用印之日起限五日內須收到全額其交款及還款之處均在橫濱由甲自向各銀行滙兌如逾限不如數交款本合同及各附帶合同即日作廢

第四條 本借款年息六分即每日金百圓年利日金六圓自本合同署名用印之日起每半年交利一次

第五條 自本合同署名用印之日起算以滿三年為還款之期但期雖未滿甲得隨時清還

第六條 此合同用中日文繕寫各執一份解積以中文為拠

理由ニ基キ日本人ヲ聘用シテ技術顧問トシ純益ハ之ヲ日支平分シ支那政府ハ別ニ借款金額ニ對シ利息ヲ支払ハサルコト

鉦產物ハ先ツ支那政府ノ需用ニ對シテ之ヲ供給シ其剩餘ハ一部又ハ全部ヲ日本ニ輸出スルコト

第二條 本契約署名調印ノ日ヨリ今次ノ政治大借款 (目下交渉中ノ八千五百萬圓ノ大借款) 成立ノ日ニ至ル間ニ於テ若シ甲カ實業開發ノ為メ更ニ乙ニ對シテ實業借款ヲ起サントスルトキハ乙ハ成ル可ク其資金ノ調達ニ応スヘシ  
第三條 本契約ハ日支兩國文ニテ作成シ各自尅通ヲ保有ス若シ解積上疑義アルトキハ支那文ニ拠ルモノトス  
大日本帝國大正五年九月九日即  
大中華民國五年九月九日

大中華民國 財政總長 陳 錦 濤  
農商總長 谷 鍾 秀  
大日本帝國興亜公司代表 永浜盛三  
代表 本田親清

(右漢文)

第二号 附帶合同

關於中華民國五年九月九日中華民國政府 (以下簡稱曰甲) 六 对中国借款關係雜件 (一) 四四三

中華民國五年九月九日即  
日本大正五年九月九日

大中華民國 財政總長 陳 錦 濤  
農商總長 谷 鍾 秀  
大日本興亜公司 代表 永浜盛三  
代表 本田親清

第二号 附帶契約

大日本帝國大正五年九月九日即大中華民國五年九月九日大中華民國政府 (以下單ニ甲ト稱ス) ト大日本帝國興亜公司 (以下單ニ乙ト稱ス) トノ間ニ於テ締結シタル實業借款契約ニ關シ甲乙双方秘密ヲ嚴守スルノ了解ノ下ニ甲ト乙トノ間ニ於テ更ニ附帶契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 甲ハ水口山鉛鉦事業ヲ日支合辦トシ并ニ太平山鉦鉦ヲ日本ヨリノ借款ニ依リ經營スルコトニ就キ責任ヲ負フ其要旨左ノ如シ

一、水口山鉛鉦合辦ハ湖南官鉦局ト協議シテ從來ノ設備一切ヲ公平ニ評價シ鉦業條例ニ基キ日支合資ヲ以テ之ヲ經營スルコト

一、太平山鉦鉦ハ日本ヨリノ借款ニ依リ之ヲ經營スルノ

与日本興亜公司 (以下簡稱曰乙) 所定之借款合同甲乙茲再行訂定條約如左惟雙方須嚴守秘密

第一條 甲負責任使將來中日合辦水口山鉛鉦事業及太平山鉦鉦借日款經營其要旨如左

一、水口山鉛鉦合辦与湖南官鉦局協議將從來之設備一切公平評價依鉦業條例合資經營之

二、太平山鉦鉦因借日款經營之故聘用日人為技術顧問利益平分中國政府亦不別給借款利息鉦產物儘先供給中國政府收用其殘余之一部或全部得輸出日本

第二條 自本合同署名用印之日起至此次大借款 (指現在商量中之八千五百萬圓大借款) 成立之日止若甲欲再行向乙借實業借款以開發實業乙可再為設法籌措

第三條 此合同用中日文繕寫各執一份解積以中文為拠  
中華民國五年九月九日即  
日本大正五年九月九日

大中華民國 財政總長 陳 錦 濤  
農商總長 谷 鍾 秀  
大日本興亜公司 代表 永浜盛三  
代表 本田親清

六 对中国借款關係雜件 (一) 四四三

第三号 附帶契約

大日本帝國大正五年九月九日即大中華民國五年九月九日大中華民國政府(以下単ニ甲ト称ス)ト大日本帝國興亜公司(以下単ニ乙ト称ス)トノ間ニ於テ締結シタル実業借款契約及第二号附帶契約ニ関シ甲乙双方秘密ヲ嚴守スルノ了解ノ下ニ更ニ左ノ条項ヲ締結ス

第一条 本借款金額五百万円ノ用途ニ付テハ乙ハ一切干涉セサルモノトス

第二条 乙ハ甲ノ為メニ目下交渉中ノ政治大借款手取金八千五百万円也ヲ三ヶ月以内ニ成立セシムルノ責任ヲ負フ但シ此大借款カ条件不調ノ為メ成立セサルトキハ甲ハ乙ニ對シテ其責任ヲ免除ス

第三条 今次ノ政治大借款不成功ノ場合ニ於テハ甲ハ水口山及太平山ノ鉱山事業ニ對スル責任ヲ免カルルコトヲ得ルモノトス

第四条 甲ハ最モ近キ将来ニ於テ借入ルル政治大借款金ヲ以テ本借款金額五百万円也ヲ償還スルモノトス但シ甲ハ已ムヲ得サル事情アルトキハ三ヶ年以内ニ隨時償還スルコトヲ得

第二条 乙為助甲起見允負責任使現在商量中実収八千五百万円之大借款於三箇月内成立但倘甲以条件不合隨時可卸免乙之責任

第三条 若此次之大政治借款不成功甲對於水口山及太平山之鉱山事業得免責任

第四条 甲於最近之将来所借之政治大借款内償還此次由乙借与之五百万円但甲有不便之時得於三年内隨時償還

第五条 万一如大借款有障礙自本合同成立之日起經過六箇月尚未能成立甲当另行提供相当之財源為抵押

第六条 此合同用中日文謄写各執一份解釈以中文為拠  
中華民國五年九月九日即  
日本大正五年九月九日

大中華民國 財政總長 陳 錦 濤  
農商總長 谷 鍾 秀  
大日本興亜公司 代表 永浜盛三  
代表 本田親清

四四四 九月十一日 石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛

久原鉱業株式会社ノ中国ニ於ケル精鍊所建設  
六 对中国借款關係雜件 (一) 四四四

第五条 政治大借款ニシテ故障ノ為メ本契約調印ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月ヲ經過スルモ尚ホ成立セサルトキハ甲ハ別ニ相当ノ財源ヲ提供シテ本借款金額ノ抵当ニ充ツルモノトス

第六条 本契約書ハ日支文各式通ヲ作成シ甲乙各壹通ヲ保有ス但シ解釈上疑義ヲ生シタルトキハ支那文ニ拠ルモノトス

大日本帝國大正五年九月九日即  
大中華民國五年九月九日

大中華民國 財政總長 陳 錦 濤  
農商總長 谷 鍾 秀  
大日本帝國興亜公司代表 永浜盛三  
代表 本田親清

第三号 附帶合同

(右漢文)  
關於中華民國五年九月九日中華民國政府(以下簡稱曰甲)与日本興亜公司(以下簡稱曰乙)所定之借款合同及該借款第二号附帶合同甲乙茲再行訂定条約如左惟雙方須嚴守秘密第一条 此次乙借与甲之五百万円用途乙一切不干涉

計畫援助方ニ關スル件

附屬書一 右精鍊所建設目論見書写

二 高木陸郎ト武昌造幣廠監督トノ制錢鑄鍊受負契約内容写

政機密送第一五八号

今般久原鉱業株式会社々長久原房之助小池政務局長ヲ訪問シ同会社ニ於テハ予テ問題トナリ居ル制錢ノ件ニ関シ別紙甲号写記載ノ目論見書通り支那官憲ノ許可ヲ得タル上ニテ支那重要ノ地点ニ精鍊所ヲ建設スルノ計畫ヲ立テ右計畫實行ノ為近ク久原ノ代表者中山説太郎ヲ貴地ニ出張セシメ其ノ筋ニ運動セシムル管ナル趣申述候而シテ本件計畫ハ別紙乙号写高木陸郎ト武昌造幣廠監督トノ間ノ契約ニ倣ハントスルモノナル由ニテ成立ノ見込モ付キ居ル趣ニ有之愈々本件實行ノ曉ニハ久原ニ於テハ右精鍊所ニ於テ制錢ノ吹分ヲ行ヒ一定ノ手数料ヲ得テ精銅ノミハ支那政府ニ引渡シ亜鉛其ノ他ハ久原ノ取得トナシ利益ヲ挙げ得ルト同時ニ右精鍊所ヲ建設スルニ於テハ自然支那各地鉱山業者ヨリ鉱石精鍊ノ依頼ヲ受クルニ至ルヘク斯クシテ支那ニ於ケル有望ナル鉱山トノ關係ヲ付ケ度キ希望ヲ有スル趣ニ有之候詳細ハ別

紙甲号及乙号写ニ就キ御承知相成度本件計画ニシテ支那官憲ノ同意ヲ得テ実行セラルルニ至ラハ從來制錢買出ニ関シ本邦人間ニ種々考案セラレタルモノニ比シ妥当ノ方法ト思考致サレ極メテ有益ノ事業ト認メラレ候ニ付貴官ニ於テモ本件計画成立方可然御援助相成度此段申進候也

尚別紙乙号写ハ久原ニ於テ高木陸郎ヨリ内示ヲ受ケ高木ノ承諾ヲ經ルコトナク右ヲ外務省ヘ提示シタルモノナルニ付極秘ニセラレ度キ旨久原ヨリ特ニ依頼有之候間左様御含置相成度候也

(附屬書一)

別紙甲号写

久原鋳業株式会社ノ中国ニ於ケル精鍊所建設目論見書

舌代

一、支那制錢ヲ支那政府ヨリ受取り支那内地ニ設置スル製鍊所ニ於テ之ヲ精製シ精銅トシテ支那政府ニ納付スルコト

一、支那政府ノ希望ニ依リテハ貨幣地金若クハ貨幣ニ作成シテ納付スベキコト

一、支那ニ於ケル制錢ノ在高ハ四百万噸ト称ス(価格凡ソ

(附屬書二)

別紙乙号写 秘拔

高木陸郎ト武昌造幣廠監督トノ制錢鑄鍊受負契約内容

湖北省武昌造幣廠監督高松如氏(甲)ト高木陸郎氏(乙)

トノ間ニ締結サレタル制錢鑄鍊受負契約内容左ノ通

一、設備 甲ハ工場敷地建物ヲ貸与シ乙ハ鑄鍊ニ必要ナル機械其他ノ設備ヲ自弁ス

一、数量 乙ハ一ヶ月間ニ制錢四十万斤ヲ鑄鍊スルコトヲ受負ヒ甲ハ上記ノ数量ヲ間違ナク供給スルコトヲ約ス

一、品位 精銅品位ハ九十八%以上(但銅貨地トシテ差支ナキモノ)ヲ乙ハ保証ス

一、採取率 制錢百斤ニ付精銅五十斤以上鑄鍊スルコトヲ乙ハ保証ス

但制錢ハ完全ナルモノヲ要ス

一、鑄鍊費 甲ハ乙ニ対シ精銅百斤ニ付漢口銀八兩五匁(現今率ニ依レハ日本金拾貳円五拾錢ニ当ル)ヲ支払フ但鑄鍊ヨリ採取スル所ノ亜鉛其他ハ乙ノ取得トス  
一、年限 未定但五ヶ年以上ナル事

八億円ナリ) 仮リニ毎年二十万噸ヲ改造セバ二十ヶ年ヲ要ス年限ノ長短ハ製鍊所設備ノ規模次第ニテ支那政府ノ希望ニ基キ定ムルコトヲ得

一、製鍊事業ハ日支合辦ヲ以テ經營スルコト

一、製鍊所ハ便利ノ地二三ヶ所ニ中央の製鍊所ヲ設置シ便宜各地ニ分工場ヲ設置スルコト

一、支那政府トノ約束ハ現ニ武昌ニ於テ高木陸郎氏ト造幣廠トノ間ニ成立セル先例ニ準拠スルモ差支ナシ但本約東成立後支那政府ハ他ト同様ノ約束ヲ為サザルコト

一、此製鍊事業ニ依リテ生ズル直接ノ利益ハ支那現在ノ惡貨幣ヲ改造シテ良貨幣ヲ供給シ尙支那現在ノ技術程度ニ於テ実行不能ナル本事業ヲ日本人ガ代位遂行スルト共ニ尙其利益ノ一半ハ支那人之ヲ所得シ得ルコト

一、此製鍊事業ニ依リテ生スル間接ノ利益ハ支那ノ各地ニ製鍊所ノ設置ヲ見ルガ為ニ其附近ニ於ケル鉱山開発ノ機運ヲ促進スルコト最モ顯著ナルベク其利益ハ直接ノ利益ニ比シ却テ永遠ニシテ且ツ偉大ノモノアルベキコトヲ信ズ

久原房之助

四四五 九月十一日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司对中国五百万円借款ノ交附及償還ヲ

取扱フ銀行ニ關スル件

第八〇八号

往電第八〇六号ニ關シ本契約第三条ニ借款交付及償還ノ場所ヲ横浜トシ其ノ銀行ハ支那政府ニ於テ指定ストアル処(漢文ニハ右末段ヲ支那政府ハ各銀行ニ向テ滙兌ストアリ)此種借款ノ交付及償還ハ從來多クハ支那ニ於テ行フコトトナリ居リ且外國ニ於テ行フ場合ニモ債權者所屬國ノ銀行ヲシテ為替ヲ引受ケシムル例ナルヲ以テ今回ノ契約ノ如ク為替銀行ノ指定ヲ支那政府ニ一任スルハ不得策ナルヲ発見シ目下興亜代表者ニ於テ支那側ニ交渉中ナリ為念申進ス

四四六 九月十三日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

对中国借款ニ關連シ興亜公司代表者變更ノ理

由問合ノ件

第八一三号 至急

興亜公司五百万円借款ノ件ニ關シ同公司代表者變更ノ趣東

京ヨリ通知アリタルヤニテ永浜等ハ支那政府ニ対シ最苦境ニ陥リ居レリ右代表者ノ変更ハ是非之ヲ必要トスル次第ナリヤ最早金額引渡ノ期日ニ差迫リ居ル際契約署名変更ヲ主張スルニ於テハ勢契約全部ヲ破棄セサルヲ得サルヘシト考フ興亜公司代表者変更ヲ必要トスル理由ニ付何分ノ御回示ヲ請フ

四四七 九月十三日 在長沙舉領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

湖南省省議會及諸新聞ガ興亜公司借款ノ水口  
山鉛鉍等ノ日中合辦ニ反対シ居ル旨報告ノ件

第一五一号

日本政府ガ鄒家屯問題ノ平和解決及大借款ノ仲介ヲ為スベキ報酬並差当リ五百萬元ノ借款提供ノ下ニ水口山鉛鉍等ヲ日支合辦ト為スコトニ関シ支那政府トノ間ニ協議中ナリトノ消息ヲ得タリトテ湖南省議會ノ名ヲ以テ中央政府ニ対シ合辦ハ勿論抵当ト為スコトニモ絶對反対スベキ旨電報ヲ發シ各新聞トモ熾ニ反対ノ論議ヲ為シツ、アリ  
在支公使ヘ電報セリ

四四八 九月十四日 石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

对中国借款ニ関シ興亜公司代表ハ差当リ變更セザル旨通報ノ件

第三五五号

貴電第八一三号署名者變更ノ件關係者側ニ問合セタル処右ハ興亜公司ノ代表者ヲ早川ニ代フルニ久原ヲ以テセントシタルモノニシテ斯クシテ本借款ノ署名者ノ一人タル本田ノ名ヲ除カントノ魂胆ニ出テタルモノ、如クナル処其後署名者變更ハ他日ニ讓ルコトトシ差当リ現契約ノ儘ニテ金額ヲ引渡スコトニ決定シタル由ナルニ付右ニ御承知アリ度シ

四四九 九月十七日 在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司对中国借款ノ水口山日中合辦ニ対スル湖南省官民ノ反対ニ付黃興ヨリ申出ノ件

第二八五号

上海總領事發在支公使宛電報第一八九号  
今朝黃興來訪水口山鉍山等ノ合辦其他ヲ条件トシテ我方ヨリ五百萬元借款ノ件ニ関シ湖南譚延闓及北京湖南議員等ヨ

リノ電報ヲ示シ同鉍山ハ省有ニ係ルモ右借款ニ付中央政府ハ毫モ同省ト協議セズ譚ヨリ屢々力爭セルモ何等回答モ与ヘズ專斷ニテ決定ヲ見タル結果同省官民ノ激昂ヲ招キ在京議員モ聯合シテ反対ヲ試ミ居ル狀況ニテ遂ニハ延ヒテ同省ノ排日感情ヲ惹起スルニ至ルノ虞アリト為シ此際彼我將來ノ為メニ図リテ借款条件中ヨリ同鉍山ヲ除クノ外良策ナキ旨縷陳ノ上右ノ事情ヲ其筋ニ伝達方懇願セルニ付本官ハ本件ニ就テハ何等承知スル所ナキモ其概要ハ取次キ置クヘキ旨答ヘ置ケリ尚黃ハ右反対ガ政府ノ專斷ニ基クモノニテ日本ニ対スル反感等ニ出テタルモノナラザルハ御含置ヲ請フ旨附言シ居タリ  
在長沙領事ヘ電報セリ

四五〇 九月十七日 在長沙舉領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

湖南省ニ於ケル興亜公司借款ノ条件タル水口  
山日中合辦ニ対スル反対運動狀況報告ノ件

第一五二号

水口山日支合辦ハ既ニ北京政府ト日本公使トノ間ニ調印ヲ經タリトノ電報国会議員等ヨリ來レル為譚省長其他ヨリ更

六 对中国借款關係雜件 (一) 四五〇 四五一

ニ大總統及湖南議員等ニ反対及挽回要求ノ電報ヲ發シ昨十六日鉍務總局ニ於テ各社会ノ有力者三十余名会合シ決議トシテ死ヲ誓フテ之ヲ爭フヘキコト先ツ抗議ノ電報ヲ發シタル後代表委員ヲ北京ニ派遣スルコト等ヲ定メ省議會鉍業總會商務總會實業協會等ヨリ各別ニ政府及在京湖南議員等ヘ打電シタリ電文ハ慷慨激越ヲ極メ其ノ要点ハ仮令調印済ナリトモ之ヲ無効ニ歸セシメラレタク湖南民二十万人ハ死ヲ決シテ之ニ反対スト云フニアリ尚明十八日更ニ大会ヲ開キ對抗策ヲ議スル筈ナリ新聞ノ論調又一層過激ヲ加ヘ來レリ本件若シ事實ニアラサレバ永ク無要ノ騷キヲ為サシムルハ得策ニアラスト思考ス  
在支公使ヘ電報セリ

四五一 九月十七日 齋藤公使館附武官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

興亜公司借款契約調印ニ付中国參議院ニ於テ政府攻撃ノ件

電報 九月十七日 午後三時二十分發  
午後六時十五分着 在北京 齋藤少將

參謀總長宛

支普九八

興亜公司五百万円借款ニ関シ昨日參議院ニ於テ秘密會議ヲ開キ陳財政總長谷農商總長出席陳總長ハ本借款ニ就キ説明シテ曰ク支那ノ現況ハ借款ニ依ルニアラサレハ窮乏セル財政ヲ維持スル能ハサルハ諸君ノ熟知スル処ナリ而シテ外資ハ歐洲戦乱ノ結果歐洲諸国ニ求ムル能ハス又米國モ五国団ノ手前上政治借款ニ応セス勢ヒ此ノ際日本ニ抛ラサルヘカラス今回ノ五百万借款ハ一時的借款ニシテ近ク四国団ヨリノ政治大借款成立セハ其内ヨリ直ニ之ヲ償還スルノ企圖ヲ有ス云々ト各議員ハ臨時約法第十九条ニ拠レハ国库ノ負担ニ係ル契約ハ予メ議會ノ協賛ヲ經サルヘカラサルニ國務院カ恣ニ本契約ニ調印セシハ違法ナリト責メ陳總長ハ此ノ契約倉卒ノ際臨機ノ処置ニシテ又臨時約法ハ一時ノ章程ニ外ナラズト答ヘ議論愈沸騰シ議場騒然タリシ又湖南安徽ノ礦山ヲ無断担保トセシハ農商總長ノ過失ナリト谷鍾秀ノ攻撃モ中々盛ナリシ由而シテ重ナル攻撃者ハ梁啓超一派ノ議員ナリト尚明日ハ衆議院ニ於テ本借款問題ヲ討議スル筈ニテ更ニ問題ハ紛糾スルニ至ルヘシト一般ニ觀測セラレアリ

支那政府ニ通告シ其確認ヲ求ムヘシ

四五三 九月十八日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国議會ノ興亜公司对中国借款反对論爭ハ政

局ノ紛糾ヲ来シツツアル旨報告ノ件

第八一九号

興亜公司借款カ水口山鉛鉱ヲ条件トシタル關係ニ依リ湖南地方ニ於テ激烈ナル反对運動ヲ起シツ、アル趣ハ在長沙領事發電ニ依リ御承知ノ通ナルカ当地ニ於テモ該借款調印後間モナク弗々其ノ消息新聞ニ伝ハリ自然内外ノ注意ヲ惹キ次テ去十六日參議院秘密會議ニ於テ陳谷兩總長ヨリ契約ノ内容ニ付説明ヲ与ヘ各議員ヨリ手厳シキ非難質問ヲ受クルニ至リテ其ノ内容逐一外間ニ洩ル、ニ至リ問題ハ漸ク拡大シ政局ニ一波瀾ヲ来サントスルノ形勢ナキニアラス右十六日ノ參議院秘密會ニ於テハ契約ノ署名者タル陳錦濤谷鍾秀ハ最激烈ナル非難ト攻撃ヲ受ケ其ノ答弁振拙劣ヲ極メ終ニ國民ノ負担ニ歸スヘキ借款契約ヲ議會ノ同意ヲ經ス漫ニ締結シタル違法ヲ詰責セラレ答弁ニ窮シタル結果十八日ノ衆議院ニ正式ニ之ヲ提出シ承認ヲ求ムル筈ナリト明言シタル

通報先 関東都督。支駐司。上海青木中将。中支司。青參長

四五二 九月十八日

石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

中国政府ノ五国団ヘノ大借款申込ニ付興亜公司ヨリ中国政府ヘノ抗議ニ関シ通報ノ件

第三五九号

興亜公司借款ニ関シ今回ノ五国団ヘノ大借款申込ニ付九月十六日早川ヨリ永浜ヘ大要左ノ趣旨ヲ電報シタル趣ナリ御含迄

「支那政府ガ日本ヲ出シ抜キ突然五国団ニ申込ミタルハ興亜トノ今日迄ノ交渉ノ趣旨ヲ無視シ契約ニ違背シタル不都合ノ行動ナルヲ以テ此際興亜ハ陳總長ニ對シ其不信ヲ責メ興亜ノ面目ヲ完ウスル為相當手段ヲ講スル様極力交渉スヘク興亜ノ周旋ニ依ラズシテ五国団ニ申込タルカ為三ヶ月以内ニ大借款成立セサルコトアルモ興亜ハ其實ニ任セサルカ故ニ附帶契約第三条及第五条ノ規定ハ自然無効ニ歸シ支那政府ハ兩鉞山ノ事業ニ對シ永久其責ヲ免カル、ヲ得ズ從テ他ノ担保ヲ以テ代フルヲ得ザルコトヲ

由ナリ從テ本日ノ衆議院ニ於テ本契約及附帶契約等提出セラル、ニ至ラハ議論益々沸騰到底一場ノ波瀾ハ免レサルヘシト予期セラル國民黨側重ナル議員中ニハ萬一議會ニ於テ契約破棄ノ議決ヲ見ルカ如キ場合ニハ關係總長ハ勿論連帶責任ノ關係上内閣ノ危機ヲ来スモ計リ難シトナシ窃ニ憂慮シ極力鎮撫策ニ奔走シツ、アルモノモ尠カラサル由ニテ彼等ハ本問題ニ反对スル重ナル党派トシテ先ツ孫洪伊派、八同盟會派、湖北共和派ヲ數ヘ其ノ外湖南選出議員ハ党派ノ如何ヲ問ハス地方關係ヨリ全部反对スヘク尚安徽選出議員モ太平鉄山ノ關係上略ホ反对側ニ立ツヘク旁々孫洪伊ニ於テ其一派ヲ纏メ妥協セシムルコトヲ得ハ國務院追認案票數ト略ホ同様ノ結果ヲ得テ兎モ角揉消シ運動成功ノ見込ナキニモアラズト觀察シ居レリ尚永浜ヨリノ内報ニ依レバ早川ヨリ支那政府ガ日本ヲ出シ抜キ政治大借款ヲ五国団ニ申込ミタルヲ捉ヘ財政總長ガ今日迄ノ興亜公司トノ交渉ヲ無視シ約束ニ違反シタルヲ指摘シ其不信ヲ責メ支那政府ガ興亜公司ノ周旋ニ依ラズ直接五国団ニ借款談ヲ開始セルガ為メ大借款ガ三ヶ月以内ニ成立セザルコトアリトモ興亜ハ其責任ヲ負フ限りニアラザルガ故ニ同契約第三条及第五条ノ規

六 对中国借款關係雜件 (一) 四五四 四五五

定ハ自カラ無効ニ帰シ支那政府ハ太平、水口兩鉱山ノ事業ニ対シ永久ニ其責ヲ免カル、ヲ得ザル旨永浜ニ電報シ来リタル由ナルガ本問題ガ前述ノ如キ紛議ヲ生シ来ル此際又復右ノ如キ行動ヲ露骨ニ執ルコトハ益々事端ヲ紛糾スルノ虞ナキニアラサルニ付右ハ今少シク事態ノ development ヲ見タル上ノ事ニシテハ如何カト存ス御異存ナクバ早川ヘ右様御協議ヲ請フ(終)

四五四 九月十九日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

水口山鉱山合併ニ付テハ湖南省政府ノ意思ヲ尊重スル意向ナル旨黃興及譚湖南省長ニ対シ説明ノ件

第八二二号

水口山合併問題ニ関シ長沙領事及上海總領事ヨリ湖南方面ニ於ケル反対ノ氣勢中盛シナル趣電報アリタルニ付長沙ニ於テハ譚省長ニ上海ニ於テハ黃興ニ対シ右合併計畫ハ決シテ湖南省政府ノ利益ヲ侵害スル意志ナキハ勿論日本側資本家ニ於テ将来愈々合併着手ノ場合ニハ湖南省政府ト十分ノ打合ヲ為シ其ノ意思ヲ尊重シテ之カ実行ヲ期スル考ナル

四五六 九月十九日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国衆議院ニ於ケル興亜公司借款反对ノ論議ノ模様報告ノ件

第八二三号

昨十八日ノ衆議院秘密会ニ於テハ興亜公司借款問題ニ関シ段總理、陳、谷兩総長ノ出席説明ヲ求メタル処陳錦濤ハ唐紹儀出迎ノ為メ天津ニ赴キタルニ依リ谷鍾秀主トシテ質問ノ矢面ニ立チ該借款ハ前渡金ノ性質ニ属シ一時財政上ノ融通ヲ目的トシ且条件解除ノ附帶契約アリ必スシモ議會ニ附議ノ必要ナキ旨ヲ以テ弁解ニ努メタル趣ナレドモ議員側ニ於テハ前渡金ナラバ其契約者ハ本借款ノ当事者ト同一ナラザルベカラザルニ興亜公司ト大借款談トハ何等ノ關係アルベキ筈ナク結局一種独立ノ借款ニシテ当然国庫負担ノ契約ナルニ付議會ノ議決ヲ経ベキモノナリトノ議論多ク谷総長ハ其弁解ニ窮セル趣ノ処湖南議員彭允彝ヨリ本契約ハ到底議會ノ同意ヲ得難キニ付当局者ニ於テ日本人側ニ対シ改約又ハ廢約ノ方法ナキヤト反問シタルニ右ハ財政総長ノ責任ナレトモ或ハ其余地ナキニアラサルベシト答ヘタルニ依リ

六 对中国借款關係雜件 (一) 四五六 四五七

ヲ以テ誤解ナキ様然ルヘク説明ヲ与フル様堺及有吉ヘ電報シ置キタルニ付此段御含置アリタシ

四五五 九月十九日

在長沙堺領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

湖南省ニ於ケル興亜公司借款反对運動情況報告ノ件

第一五三号

水口山合併反对問題ニ関スル昨十八日ノ有志大会ハ省議會員及実業界ノ者ヲ中心トシテ激烈ニ政府及熊希齡等ヲ攻撃シ若シ政府カ省民ノ抗議ヲ容レ契約ヲ廢棄スルニアラサレハ湖南ハ独立スヘシト称スルアリ或ハ日貨排斥ヲ実行スヘシト主張スルアリ或ハ此際直ニ鉱務總局(官鉱局)ヲ改メテ湖南鉱務總公司トナシ自由行動ノ地方有ノ実ヲ挙クヘシト唱フルアリ結局代表者二名ヲ北京ニ派スルコト公民大会ヲ設置スルコト政府ニ詰問ノ電報ヲ發スルコト等ヲ議決シ散会セリ各新聞紙ハ論説及雜報ヲ以テ盛ニ政府ヲ攻撃スルト同時ニ日本ニ対シテモ漸ク罵詈ヲ論調ヲ現シ来レリ北京ヘ電報セリ

結局一週間ノ余裕ヲ与ヘ其結果ヲ議會ニ報告セシムルコトトナリタル由ニ伝聞スル処本問題ニ関シテハ引續キ輿論ノ反抗甚シク各新聞トモ同様ノ記事ヲ以テ充サレ居ル位ニシテ殊ニ湖南督軍及省議會ヨリハ其後ニモ頻々強硬ナル反对電報ヲ寄せ来リ契約ノ廢止ヲ以テ絶対ノ必要トシテ湖南議員ニ迫リ居ル模様ナルト反对派ハ勿論国民党内ニ於テモ分裂ノ兆アリ延テハ南方派ノ運命ニモ関スル次第ナルニ付同派ニ於テモ勢ヒ契約ノ改廢ニ依リ輿論ノ緩和ヲ計リ議會ノ不同意若ハ進シテ彈劾案ノ提出ヲ喰止ムルノ策ニ出ツルノ外方法ナキモノノ如ク現ニ昨夜本使ガ著任披露ノ宴ニ来会シタル張繼ノ如キモ小幡参事官ニ対シ同様ノ意味ヲ洩ラシ同官ノ考慮ヲ求メタル由ナリ(終リ)

四五七 九月十九日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ノ真相ニ外国筋モ注意シ居ルニ付同公司ヨリ中国政府ヘノ抗議見合スヲ可トスル旨稟申ノ件

第八二四号

興亜公司借款ニ関シ物議百出一大波瀾ヲ起シ早晚或ハ二三

閣員ノ進退ヲ余儀ナクスルモ計リ難キ趣ハ往電第八一九号及第八二三号ヲ以テ報告ノ通ナルカ其後關係国公使館及外国銀行側ニ於テモ其真相ヲ明ニスルヲ努メ特ニ該借款カ我政府承認ノ下ニ成立シタルモノナルヤ否ヤニ付頗ル深キ注意ヲ払ヒツ、アルモノノ如ク現ニ「タイムス」特派員杯モ此ノ点ニ論及シツ、アル由ナリ從テ万一議會ニ於テ契約書秘密契約書ノ如キ迄提出セラル、ニ至ラハ第一実業ノ仮面ノ下ニ行ヘル政事借款ナルコト第二興亜公司カ政事大借款ノ成立ニ斡旋スルノ責任ヲ負ヘルコト第三今回ノ五百万円借款カ大借款ノ前貸金タルノ觀アルコト等頗ル面白カラサル事實暴露シ五国団トノ關係上我態度ニ関スル疑懼ノ念ヲ深クシ延イテハ我政府ノ面目信用ニ渺カラサル累ヲ及ホスナキヲ保セスト察セラル就テハ貴電第三五九号ヲ以テ御来示ノ件実行一時見合セ方ニ関シテハ既ニ往電第八一九号末段ヲ以テ申進メタル次第アルモ本件ハ前記ノ如キ見地ヨリスルモ断然之ヲ見合ハスコト、致シタシ

(奉天發 九月十九日、後九、四五)

四五八 九月二十日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

ノ立場ヨリ見ルモ愈々大借款ヲ引受クルニ至ルヘキヤ否ヤ未タ大体ノ方針モ決セサル今日此ノ点ハ殆ト問題トナスニ足ラサルヘシ

將又当地四国団体ヨリ追テ倫敦本部ニ對シ興亜借款ニ付財政部ニ質問ノ次第ヲ電報スルニ至ルヘシト存セラル、ニ付御異存ナキニ於テハ前記弁明振適宜御取捨ノ上該借款契約成立ノ成行要領ト共ニ在英大使及横浜正金銀行倫敦支店ニ転電シ置カル、方然ルヘキカト思料ス

註 九月二十日林公使發石井外務大臣宛電報第八二五号ハ前掲三三九文書ナリ

四五九 九月二十日 齋藤公使館附武官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

興亜公司借款ニ関スル中国議會ノ政府攻撃ニ依リ政局益々紛糾ノ形勢ナル旨報告ノ件

電報 九月二十日午前十一時 分發  
九月二十一日午前六時十五分着  
齋藤少將

參謀總長宛

支極秘第六十四号

今回ノ五百万円借款ハ目下政界ノ重大問題トナリアル爭ナ

六 对中国借款關係雜件 (一) 四五九

興亜公司借款ニ関シ小田切ヲシテ四国銀行団ニ對シ為サシムベキ弁明ニ關スル件

第八二八号

往電第八二五号ニ関シ興亜公司借款ハ自然引続キ四国団体ノ問題トナルヘキニ付必要ノ場合ニハ小田切ヲシテ大体左ノ通弁明セシムル積ナリ

(一)本借款ハ鉅山開發ヲ目的トスル実業借款ナル趣ナルカ契約ノ内容及調印ノ次第ハ横浜正金銀行ハ勿論公使館ニ於テモ事後ニ於テ初メテ承知シタル次第ナリ

(二)本借款契約中興亜公司ハ政事大借款成立ニ関シ責任ヲ以テ援助ヲ与フヘシトノ規定アル趣ニ付關係者ニ尋ネタル処右ハ興亜公司出資者ニ於テ日本財界ニ相当勢力アルヲ利用シ政事大借款愈々支那政府ト四国団体トノ間ニ商議セラル、ニ至リタル場合ニハ日本財界ヲ動カシ其成立ヲ見ル様尽力スヘシトノ意味合ニテ右様ノ規定ヲ設ケタル次第ナリトノコトナリ

(三)又本借款金額ハ政事大借款成立次第償還スルコト、相成居ル趣ナルモ右ハ興亜公司ニ於テ大借款ノ近ク成立セラルヘキヲ確信シテ約束シタル次第ニハアラスト云フ四国団体側

ルカ本借款契約ノ内容ハ三個ノ契約ヨリ成リ第一号ハ五百万円ノ貸借分ニシテ其内容ハ既報ノ如クナルモ担保物件ナシ第二号ハ第一号ノ契約ヲ成ス為水口太平ノ両鉅山ヲ合辦トスルコトヲ約シ興亜公司カ第二善後大借款ノ成立セサル場合ニ八千万円ノ大借款成立ニ周旋スルコトヲ述ヘ第三ハ八千万円借款ノ成立セサル場合ニ両鉅山ノ合辦ハ自然成立セス然ル時ハ第一号契約ノ担保トシテ適當ノ財源ヲ支那政府ヨリ提供セシムル契約ナルカ如シ而シテ此借款ニ對シ參、衆兩議院ノ反對スル主要点ハ國庫ノ負担ニ關ハル借款ヲ議會ノ承認ヲ經ス國務院カ專斷ニ外國ト契約セシハ約法第十九条ニ照シ確カニ違法ニシテ約法ノ神聖ヲ害シ議會ヲ蔑視シタルモノナリト云フニアリテ各議員ノ國務院攻撃愈々激烈トナリ既報ノ如ク去ル十六日參議院秘密會議ニ於テハ陳財政總長先ツ攻撃セラレ陳ハ遂ニ天津ニ遁レ該地ヨリ三日間ノ休暇ヲ請願シ来リ又一昨十八日ノ衆議院秘密會議ニ於テハ谷農商總長主トシテ攻撃ノ矢面ニ當リ約二時間余ニ亘リ激論ノ末一週間以内ニ契約内容ヲ改訂シ更ニ議會ノ承認ヲ求ムルカ然ラサレハ廢約セサルヘカラサルノ羽目ニ陥リタルモ既ニ契約成立シ金額モ亦受領シタル今日政府當

局者トシテ外国ニ対シ此ノ如キ事モナスコト能ハス甚タ困却シツ、アリ現ニ一昨夜谷鍾秀ハ本職ニ対シ本日衆議院ニ於テ攻撃セラレタル苦痛ヲ述ヘ余等ハ此ノ儘総長ノ席ニ止マリ得ルヤ否ヤハ頗ル疑問ナリト悲觀シ居レリ此ノ如キ状況ニテ議員ノ本問題ニ対スル意気込ハ愈々猛烈トナリ近ク内閣信任案ヲ提出セサレハ止マサルノ形勢ヲ呈セリ若シ果シテ内閣彈劾セラル、ニ至レハ責任内閣タル以上段総理初メ各国务員全部責任ヲ負ハサルヘカラサルモ段祺瑞ノ如キハ勿論頑トシテ辭職セサルヘク然ル場合ニ民党側総長ノミ辭職スルコト、ナランカ今後ノ状況実ニ予測スヘカラストシテ張繼初メ国民党ハ苦慮シツ、アリ然レトモ此問題ハ湖南省民ノ紛擾、各政派ノ勢力競争、帝制派ノ暗中飛躍等錯綜シテ今後益々紛糾スヘク觀察セラル猶十八日ノ衆議院秘密會議ニ於テ某議員ヨリ段國務總理ニ対シ政府ハ青木中將ヲ顧問トシテ傭聘セントスルハ事實ナルヤト質問シ段ハ以前ニハ此談アリシト答ヘ爾後如何ニスルヤト問ニ対シ將來ノ事ハ其場合ニ於テ適當ニ処弁スヘシト述ヘタル由

四六〇 九月二十一日 石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

ハ此際之ヲ放棄スルコトニ異存ナキニ付右ノ通製鍊所ノ件ヲ提議スヘク太平山ノコトハ目下問題トナリ居ラサルモ若シ同山モ止メ度シトノコトナラハ之ヲモ放棄シ差支ナク其際ハ銅官山鉄山合辦ノコトヲ加ヘ度キ旨返電シタル趣ナリ早川ヨリ永浜本田ニ対シテハ至急帰朝スヘキ旨已ニ電報シタル由ニテ他面久原ヨリハ近々相当ノ人ヲ興亜代表者トシテ貴地ニ選派スル積ナル趣ナルカ契約變更ノ件前記ノ通運フニ於テハ張繼ノ顔モ立チ支那政府ノ都合モヨク日本側ニモ有益ナルニ付右ノ如キ結果トナル様致度キヲ以テ貴官ハ中山ヲ援助シ右久原側ノ意向ニ副フ様精々御尽力相成度シ尚愈契約變更右ノ如ク話整フコト、ナラハ將來両山ノ内ヲ何者カニ提供スル場合ニ対シ興亜ニ優先權ヲ得セシムル様致度シ又貴地發新聞電報ニ依レハ支那政府ニ於テハ久原ノ企圖セルモノト同種類ノ官製鍊所ヲ設立スルコトニ決定セリトノコトナル処中山ヨリ久原ヘノ報告ニ依レハ右計画ハ常吉<sup>ツネキチ</sup>ノ發案ニ基クモノナリトノコトナルニ付果シテ然ルニ於テハ常吉ニモ協議セラル、コト有利ナルヘキカト存ス為念申添ユ

興亜公司ヨリ中国政府ヘ抗議ノ件実行見合方  
在北京同公司代表者ヘ申送済ノ件

第三六四号

貴電第八一九号及第八二四号各末段御稟申ノ往電第三五九号ノ件実行見合セハ当方ニ於テモ同感ナルニ付關係者側ヘ内話シ五月廿日早川ヨリ貴地代表者ヘ右見合方申送済ナリ

四六一 九月二十一日 石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

興亜公司借款ノ条件タル水口山合辦ヲ他ノ条件ト換ヘ度キ旨中国側ヨリ申出ノ件

第三六五号

貴電第八一九号第八二三号及第八二四号ニ関シ八月十九日在貴地久原代表者中山説太郎ヨリ久原ヘ電報ニテ張繼ヨリ中山ニ対シ議會ノ反对ニ鑑ミ現内閣ヲ助クル意味ニ於テ借款契約ヲ改訂シ水口山合辦ノ件ハ之ヲ他ノ条件ト代ヘ度シ現内閣及議會ハ久原ナラハ充分好意ヲ有スト申出テタル処中山ニ於テハ九月十一日付政機密送第一五八号往信所載製鍊所設立ノ件ヲ右水口山ニ代フル条件トシテ持出スコトハ此機会ヲ以テ適當ナリト思考スル旨申越シ久原ヨリ水口山

四六二 九月二十一日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛

四国銀行団代表者ヨリ中国政府ヘ提出ノ興亜  
公司借款ニ関スル質問書及倫敦本部宛同伴  
報告電報ヲ送付ノ件

附屬書一

九月二十日四国銀行団代表者ヨリ陳財政總長

ヘ提出ノ興亜公司借款ニ関スル質問書ヲ

同日四国銀行団代表者發同倫敦本部宛右質問

通報ノ電報ヲ

附記一

四月十日在中国日置公使發石井外務大臣宛電

報第二八三号

「リー、ヒギンソン」及中国政府間借款成

立ノ新聞報ニ付報告ノ件

二 同右電報第二八五号

「リー、ヒギンソン」及中国政府間借款ニ

関シ米国公使來談ノ件

機密第二六五号 (九月二十八日接受)

大正五年九月二十一日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

興亜公司借款ニ関シ四国銀行団ヨリ支那政府

へ質問ノ件

九月十九日四国団會議ニ於テ興亜公司借款並ニ Lee Higginson 借款前貸ノ件ニ付支那政府へ質問スルコトニ決議シ翌二十日四国銀行団代表者連名ヲ以テ財政總長ニ質問書ヲ発スルト同時ニ倫敦本部へ其趣電報シタル次第へ往電第八二五号及第八二九号ヲ以テ及報告置候処右財政總長宛質問書へ別紙甲号ヲ倫敦本部宛電報へ別紙乙号ヲ通ニ有ニ候間御査閲相成度候也

(附屬書一)

甲号

九月二十日四国銀行団代表者ヨリ陳財政總長へ提出ノ興亜公司借款ニ関スル質問書ヲ

Copy.

Peking, September 20th, 1916.

The Honourable

Dr. Chen Chin-ao,

Minister of Finance,

Peking.

Sir,

Our attention has been called to reports published in the newspapers that your Ministry has concluded an agreement with Japanese parties for an advance of

Yen, 5,000,000 either to be repaid out of a loan of \$80,000,000 to be negotiated with the said parties, or, should these negotiations fail, to be refunded as a separate loan.

As the above transaction, if correctly reported, would appear to be inconsistent with your letter of the 14th of September, applying to our Groups for a loan of £10,000,000 together with supplementary advances, pending completion of negotiations, and to conflict further with the provision of Art. 17 of the Reorganization Loan Agreement, we have the honour to ask that you will be so good as to inform us how far the report above referred to is correct.

We take this opportunity of referring also to the advance which is reported to have been concluded some months previously with Messrs. Lee Higginson & Co. which would appear similarly to be in conflict with the terms of Art. 17 of the Reorganization Loan Agreement and would ask you to be kind enough to furnish us with such information regarding that transaction as may enable us to explain it to our Groups.

We have the honour to be,

Sir.

(Sd.) E. G. Hillier

” R. St. Pierre

” L. de Hoyer

” M. Odagiri

(附屬書二)

乙号

九月二十日四国銀行団代表者宛倫敦本部宛右質問通報ノ電報ヲ

TELEGRAM FOR LONDON, 20th

SEPTEMBER, 1916.

The following is for the British, French, Russian and Japanese Groups. Minister of Finance has concluded agreement with independent Japanese parties for advance of ¥5,000,000 terms of which are reported to provide for repayment from loan of \$80,000,000 to be negotiated by same parties. Four Groups representatives have written to Minister pointing out that such transaction would be inconsistent with his recent application to us, and at variance with Article 17 Reorganization Loan Agreement, and asking how far report is correct. Also asking for explanation of Lee Higginson advance which appears to be equally in conflict with Article 17.

(附 記一)

四月十日在中國日置公使宛石井外務大臣宛電報

「リー・ヒギンソン」及中國政府間借款成立ノ新聞報ニ付報

告ン件

第二八三号

四月十日ノ北京「ガゼット」ハ米国銀行家 Lee Higginson ト支那政府トノ間ニ在米支那公使ノ斡旋ニ依リ実業借款 (総額米貨二千五百万弗ナリト云フモ確ナラズ) 成立シ已ニ米貨百万弗ノ前渡ヲナシタル旨支那側ヨリ聞込シタル趣ヲ掲載セリ

(附 記二)

四月十日在中國日置公使宛石井外務大臣宛電報

「リー・ヒギンソン」及中國政府間借款ニ関シ米国公使來談ノ件

第二八五号

往電第二八二号米国借款ノ実否書面ヲ以テ米国公使ニ問合セタルニ、十日同公使來訪「リー・ヒギンソン」ト支那政府トノ間ニ借款談纏マリタルハ事実ナリ同社ハ支那ニ代表者ヲ有セサル為在支那公使ニ於テ交渉ノ衝ニ当リタル關係上詳細ノ事実ハ承知セサルモ金額ハ米貨五百万弗(五

六 对中国借款關係雜件 (一) 四六三 四六四

〇〇〇、〇〇〇) ニシテ差当リ preliminary loan トシテ米貨百万弗 (一、〇〇〇、〇〇〇) ヲ期限三年、利子六分、手取九十七ノ無担保大蔵省証券ニテ募集スル筈尤市場ノ都合ニテハ長期ノ公債ニ改ムル積ナリ

右ニ関シ約十日前外交部ヨリ在米公使ニ借款調印權ヲ委任シタルニ付其旨米國政府ニ通達方照會シ来リタル旨ヲ内話シ尚「リー、ヒギンソン」ハ紐育、「ポストン」ヲ中心トシテ活動シ居ル有力ナル財業者ニシテ一八六〇年頃創立セラレ其際發起人ノ一人ガ嘗テ支那ト關係ヲ有シタリトノ伝説アリタルモ別ニ支那トノ事業上ノ關係ヲ結ビタルコトナカリシカ先年米國金満家 Guest ナル者支那漫遊後同社ト支那政府トノ仲介ヲ為シ昨年末始メテ支那政府ノ Financial agent トナリタル旨ヲ附言セリ

四六三 九月二十一日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

與亜公司借款ニ関シ四國銀行団代表者財政總

長ニ質問書提出ノ件

第八二九号

当地四國銀行団代表者ハ九月二十日連名ニテ往電第八二五

四二二

号ノ質問書ヲ財政總長ニ発スルト同時ニ倫敦本部ニ其趣ヲ電報セリ

四六四 九月二十二日 在石井外務大臣ヨリ  
在英国珍田大使宛(電報)

與亜公司ノ对中国借款ニ関スル中国議會ノ反對竝四國団ノ疑惑及我方ノ弁明措置通報ノ件

別 電 同日石井外務大臣發珍田大使宛第三四〇号  
與亜公司借款契約要領

第三三九号

最近早川千吉郎等ノ計画シタル與亜公司ト支那財政部トノ間ニ借款談進行中ナリシトコロ九月九日別電第三四〇号ノ如キ条件ニテ契約ニ調印スルニ至リタリ右借款ニツキテハ我官憲側ニ充分ノ打合無カリシ為メ契約面ニモ種々不備ノ点アリ支那側ニ於テモ殊ニ国会ニ於テハ事前ニ之ヲ国会ニ議ラサリシコト及ヒ湖南省官有ノ水口山ヲ勝手ニ処分シタルコト等ノ理由ヨリ激烈ナル反對ヲ為シツ、アル処一方四國銀行団側等ニ於テハ之ヲ以テ実業借款ノ仮面ノ下ニ行ヘル政治借款ニシテ或ハ我政府承認ノ下ニ成立シタルモノニ非サルヤヲ疑フ者アリ九月二十日四國銀行団代表者連名ニ

第一、金額五百万円手取九十四利子六分期限三年使途太平洋山鉄鉱水口山鉛鉱經營

第二、附帶秘密契約ノ(一)水口山ハ合辦トシ太平洋山ハ日本ノ資金ニテ支那之ヲ經營シ利益ハ平分スルコト、秘密契約ノ(二)借款ノ用途ニハ干涉セサルコト與亜公司ハ支那政府ノ為メ政治借款ヲ三ヶ月内ニ成立スヘキ様尽力スルコト政治借款不成功トナリタルトキハ支那政府ハ水口山太平洋山事業經營ノ責任ヲ免ル、コト此借款ハ政治借款成立ノトキハ其内ヨリ償還スルコト

四六五 九月二十二日 在中国林公使ヨリ  
在石井外務大臣宛(電報)

與亜公司借款契約改訂ニ関スル中国側トノ協議ノ狀況等報告ノ件

第八三〇号

貴電第三六五号ノ件ハ当方ヨリモ電稟セント存シ居リタル所ニ有之九月十八日本館ニ於テ張繼ヨリ大体ノ希望小幡ニ説ク所アリ続イテ支那側ヨリ中山ニ相談ヲ開始シ常吉モ交渉ノ協議ニ与リ居レリ昨二十一日谷農商總長ハ本使ヲ來訪シ借款契約變更ニ関シ中山カ久原ノ代理人タリ得ルモノナ

(別 電)

九月二十二日石井外務大臣發珍田大使宛電報  
與亜公司借款契約要領

別 電

第三四〇号

與亜公司借款契約要領左ノ如シ

六 对中国借款關係雜件 (一) 四六五

リヤ否ヤヲ本使ニ問合セタルニ付本使ハ然ル旨ヲ答ヘ置キ  
タリ尚本使ハ中山及常吉ニ対シ五百万円ノ担保及其ノ返済  
方ニ関シテハ製鍊所設立ヨリ生スル支那側ノ利益中ヨリ償  
還スルコト、ナシ若シ不足ナル場合ニハ他ノ收入ヨリ償還  
スルカ若ハ適當ノ担保ヲ提供スヘキコトヲ規定シ而シテ水  
口山ニ関シテハ将来外国ノ資本ヲ用フル場合ニハ先ツ久原  
ニ相談スヘキコトヲ規定シ得ハ好都合ナルヘク且又新契約  
ニハ興亜公司ト云フカ如キ取止メモナキ名目ヲ用フルヨリ  
久原ノ名ニ於テ取結フコト却テ宜シカルヘキ旨申添ヘ置キ  
タリ

四六六 九月二十二日

在英国珍田大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ヲ繞ル中国政局ノ危機ニ関スル

「モーニング、ポスト」紙ノ天津特電報告ノ

件

第三六五号

九月十九日天津発「モーニング、ポスト」特電左ノ通り  
民国第一年ノ際ト類似ノ政治的危機起リツ、アリ政府ハ財  
政上必死ノ窮境ニ在ル事トテ財政総長陳錦濤ハ内閣ノ承認

四六八 九月二十三日

在英国珍田大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ニ関スル英国ノ疑惑ニ対スル弁

明措置ニ関スル件

第三六九号

往電第三六六号ト行違ヒニ貴電第三三九号以下接到セリ然  
ルニ之ト前後シテ香上銀行ヨリモ本件ニ関シ北京四国団代  
表者ヨリ接到ノ団体本部宛電報写正金へ通牒シ来レルガ  
(二十二日午後)右通牒ヲ齎ラシ来レル香上銀行員ハ正金  
支店長ニ対シ關係日本財業者ノ何人ナルヤヲ尋ネタルニ付  
支店長ハ本件ノ事実ハ右香上銀行ノ通牒ニテ初メテ承知セ  
ル旨ヲ答フルト同時ニ支那政府ヘノ抗議ニ正金代表者モ加  
ハリ居ルヲ見テモ本件ハ寢耳ニ水ナリシナラント思ハルト  
述ヘタルニ香上銀行員ハ如何ニモ左モアルヘキヲ信ス由來  
政府ノ監督外ニアル独立ノ財業者カ此種ノ行動ニ出ヅルハ  
英国ニテモ曩ニ「クリスプ」借款ノ例モアリ之ト同時ニ日  
本ニテハ英国ト事情ヲ異ニシ經濟界殊ニ財業者カ著シク政  
府ノ勢力ノ下ニアルコト一般ノ認ムル処ニテ今回ノ出來事  
ノ如キモ当国公衆ニ取リテハ多少諒解ニ難シトスル処ナル

ヲ經テ日本ノ某財業者トノ間ニ若干ノ鉅山特許引換ニ借款  
引受ケ仮契約ヲ締結シタルニ此間財政ノ危機ニ無頓着ニ一  
意憲法上ノ紛争ニ耽リ居リタル議會ハ今ヤ内閣ニ対シテ本  
件ノ説明ヲ迫リツ、アリ為メニ財政総長ノ辞意切ニシテ或  
ハ内閣瓦解ヲモ見ントスル現状ナルガ議會カスル広汎ノ權  
力ヲ要求スル間ハ全国ニ号令スルニ足ルノ有力ナル内閣ノ  
成立ヲ見シ事ハ事實覺束ナシト云フヘシ時局ノ危急ハ内閣  
員ハ之ヲ認識シ居ルモ議會ハ之ヲ解セス破壊的政策ニ耽リ  
ツ、アリ

四六七 九月二十三日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

四国銀行団代表者ノ質問狀ニ中国政府回答ノ

件

第八三五号

往電第八二九号ニ関シ財政部ハ九月二十二日附財政總長秘  
書ノ名ヲ以テ二十日附四国銀行団代表者ノ質問書ヲ受領シ  
タル旨及右ノ事実ニ対シテハ慎重ナル考慮ヲ加フヘキ旨ヲ  
銀行団ニ回答セリ

ヲ恐ルト述ヘタル趣ニ付不取敢機宜ノ処置トシテ大久保ヲ  
シテ当館著ノ消息トシテ貴電第三四〇号第一点ノ次第並ニ  
本件締約者タル興亜公司ハ近來急ニ鉅山業ニテ成効セル久  
原某ナルモノナルコト本借款成立ハ在支公使及小田切モ事  
後ニ至リテ初メテ承知セル次第ナルコトヲ「アジス」ニ内  
話セシムルコトニシタルガ本件ニ付テハ此際出來得ル限り  
英国側ノ懸念ヲ氷解セシメ置キタク就テハ小田切ニ於テ貴  
電第三四一号ノ趣旨ニテ弁明ノ上ハ当地ニテモ之ト同様ノ  
程度マテ説明ヲ行フノ要アルニ付小田切ニ於テ既ニ右弁明  
取計ヒノ有無折返シ御回電アリタシ

將又北京四国団代表者ヨリ当地本部宛電報末文ニハ「  
Higginson ヨリノ借款モ今回ノ日本借款同様改革借款契約  
第十七条違反ノ嫌アルニ付之レ亦支那政府ノ説明ヲ求メタ  
リトアル処右 Higginson 借款ノ内容本使心得迄御電報アリ  
タシ

四六九 九月二十六日

石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

興亜公司借款ニ関シ四国団側ニ対シ小田切ハ

弁明取計済ナリヤ問合ノ件

第三七六号

貴電第八二八号興亜公司借款弁明方ニ関シ倫敦ニ於テモ同様ノ程度ニテ説明ヲ行フ要アリトテ小田切弁明取計済ナルヤ否ヤ在英大使ヨリ問合セ来リタルニ付右取計ノ有無折返シ電報アリタシ

四七〇 九月二十六日

石井外務大臣ヨリ  
在英国珍田大使宛(電報)

興亜公司借款ニ関シ弁明済ナルヤニ付在中国  
公使ニ問合中ナル件

第三四八号

貴電第三六九号興亜公司借款ニ関スル小田切弁明取計ヒノ有無ハ在支公使ニ問合中ナルニ付回電アリ次第電報スベシ  
(中略)

往電第三三九号乃至第三四一号並貴電第三六九号本電ト共ニ為參考在欧米各大使ニ転電アリタシ

註 中略ノ部分ハ「リー、ヒギンソン」借款ノ經過概要ナリ

四七一 九月二十七日

石井外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛

興亜公司借款ノ水口山ニ関スル条件放棄ニ付

右参考ノ為北京ヘ転電アリタシ

四七二 九月二十七日

在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ニ関シ四国銀行団ニ対スル弁明

差控ノ件

第八四三号

貴電第三七六号ニ関シ未タ四国団側ヨリ何等表立タル質問ナキニ付小田切ニ於テ弁明方差控ヘ居レリ尤モ過日 High igh ニハ全然非公式ニ往電第八二八号ノ極大体ヲ説明シ置キタル趣ナリ

四七三 九月二十七日

武内正金銀行總支配人代理ヨリ  
小池政務局長宛

興亜公司ノ五百万円借款ト政治大借款トノ関  
係ニ関スル小田切取締役ノ報告書ヲ送付ノ件

附屬書 九月十八日附小田切取締役ヨリ井上頭取宛頭第

一九七号

右報告書ヲ

大正五年九月二十七日 第八五号

横浜正金銀行

六 对中国借款關係雜件 (一) 四七二 四七三

黄興ニ伝言方訓令ノ件

第一一八号

興亜公司借款ノ件ニ関シ左ノ通黄興ニ伝ヘラレタシ  
「水口山ニ関スル条件ニ付テハ北京ニ於ケル議會及湖南省民ニ於テ盛ナル反对アル趣ノ報道ハ帝国政府ニ於テモ接手シ居リ他面過日貴殿ヨリ小池政務局長宛打電セラレタル次第モアリ旁帝国政府ハ内々興亜公司ヲ説得シ同公司モ遂ニ帝国政府ノ趣旨ヲ体シ該条件ヲ放棄シ該借款契約ヲ改訂スルコトニ決意シ目下北京同公司代表者ニ於テ支那側ニ交渉中ナリ右ハ帝国政府ニ於テ現下日支親善ノ趨勢ニ鑑ミ湖南省民ノ思惑ヲ考ヘ北京政府ノ苦衷ヲ察シ且ハ貴殿ヨリ御申越ノ次第ヲモ尊重シ難キヲ強イテ興亜公司ヲ説キ右ノ如ク取計フコト、ナリタル儀ナルニ付其辺御諒承ノ上貴殿ヨリ湖南省民ニ対シ篤ト以上ノ事実ト帝国政府ノ意思ノアル所ヲ伝ヘ此上反对運動等ヲ継続セサル様勸説方御尽力アリタク若シ又夫レニモ不拘彼等ニ於テ右等運動ヲ捨テサルカ如キコトアラハ本邦ニ於テハ遂ニ之カ反動トシテ不快ノ感情ヲ激成スルニ至ルヘク其影響ノ容易ナラサルモノアルヘキハ洵ニ憂慮ニ堪ヘス」

總支配人代理 武内 金平(印)

外務省

小池政務局長殿

拜啓左記事項ニ関シ別紙ヲ通リ在北京弊行小田切取締役ヨリ報告有之候間茲許供御内覧候 敬具

政治大借款興亜公司借款關係ノ件

(九月十八日付)  
(第一九七号)

(附屬書)

頭第5ノ百九十七号

大正五年九月十八日

於北京支店

取締役 小田切万寿之助

本店

頭取 井上準之助殿

政治大借款興亜公司借款關係ノ件

興亜公司五百万円借款ニ関スル附帶契約中ニ政治大借款ノ成立ニ対スル責任負担ノ条項ヲ明記シアルカ為外間ニ於テハ自然同公司ト五国団体ノ日本銀行団トヲ混同シ右五百万円借款ヲ以テ日本銀行団カ前貸ヲ為セシモノトハ誤解ヲ惹

四一七

起スノ虞アル次第ハ先般公信ヲ以テ得貴意置候処其後果シテ各方面ニ於テ右ニ関シ多少ノ疑惑ヲ抱キ居ルヤニ聞及候際恰モ去十五日団体会議開催セラレタルニ付本役ハ其席上ニ於テ右借款ハ事実ニ相違ナシトノ報道ニ接シタルコト、其資金ハ南部支那ニ於ケル鉱山開掘ノ事業ニ關係アルコト、日本団体代表者ハ右借款ニ関シ支那当局者ト何等ノ關係ヲ有セサルコトヲ説明シ以テ我旗幟ヲ鮮明ナラシムルノ手段ヲ取り置候

然ルニ右借款ト二鉱山トノ關係漸次外部ニ傳播セラレテ種々ノ評論ヲ発シ殊ニ湖南省ヨリハ抗議の電報陸續到達セル結果議院ニ於テハ袖手傍觀スル能ハサルノ地位ニ立チ一昨日參議院ハ秘密会ヲ開キ財政總長陳錦濤、農商總長谷鍾秀ノ出席ヲ請ヒ其事実ヲ質問シ二總長議員間ニ幾多ノ問答ヲ重ネ候其際政府ハ契約全体ヲ提出シテ議員ニ内示セル結果今ヤ該契約写ハ同院議員全部ノ手ニ入りタル由ニ有之又本日ノ衆議院ニ於テモ同様ノ質問ヲ試ムヘシトノコトナレハ今回借款ノ条件等ハ不日一層広ク内外ニ知渡ルコトハ言フ迄モ無之候

參議院秘密会ノ内容ニ関シテハ各新聞紙ノ記事一致セサル

会ニ於ケル答弁ハ大借款與亜借款トノ關係ヲ否認セス(此答弁ニ関スル前掲情報ヲ事実ナリト假定シ)而カモ此答弁ト幾多ノ誤聞トカ広ク世間ニ伝ハル時ハ衆口鑠金終ニハ各代表者ニ於テモ不言ノ中ニ怪訝ノ念ヲ懷クニ至ルヤモ計リ難ク此怪訝ノ念ハ一転シテ本邦ノ信用ニ影響スル所アルヘク随テ本役ニ於テハ一方ナラス杞憂ヲ抱ク次第ニ有之候

本朝支那議員連ト密接ノ交情アル本邦人某カ或支那人ノ談話ナリトテ語レル所ニ抛レハ支那政府ハ予メ交渉ノ不調ニ歸スルヲ知リツ、五国団体ニ対シ形式的ニ大借款問題ヲ提起シ其不調ニ歸スルヲ待テ興亜公司ヨリ之ヲ借入レントスルノ計画ニテ此計画ヲ立テタル者ハ即チ背後ニ潜伏スル内外幾多ノ策士ナラントノコトニ有之候事ノ真偽ハ固ヨリ臆断ノ限リニアラス又其所謂策士ノ何者タルカハ本役ノ明知セサル所ナリト雖若シ万一ニモ彼等カ右様ノ計画ヲ立テタルモノトスレハ其ハ支那財政及借款問題ニ関スル我大方針ニ累ヲ及ホスノ行動ニシテ關係各方面ニ於テ異常ノ警戒ヲ要スヘキハ勿論其言論報告等ニ関シテハ読者聞者ニ於テ十二分ノ注意ヲ払フノ必要有之候

本日衆議院ニ於ケル質問ノ状況ハ聞込次第更ニ御報告可及

点アリテ其正確ノ状況ハ之ヲ詳知スルヲ得スト雖他ノ比較的確実ナル方面ヨリ政府答弁ノ要旨トシテ聞ク所ニ抛レハ二總長ハ議院ニ於テ五百萬圓借款ハ八千五百萬圓大借款ノ前貸ニシテ大借款成立後其資金ヲ以テ之ヲ償却スル筈ナレハ五百萬圓借款契約成立以前ニ議院ノ協賛ヲ求ムル必要ナシ而シテ若シ三ヶ月内ニ大借款ノ成立セサル曉ニハ礦山ニ關スル規定ハ直チニ取消サレ五百萬圓ハ三ヶ年内ニ償還セラルヘク又国会ノ承認ヲ得テ大借款ノ成立スル曉ニハ前貸ニ對スル報酬トシテ二礦山ヲ提供スルモ亦不可ナシトノ意ヲ弁明セル由ニ有之候右情報ニシテ事実ニ相違ナシトセハ支那ハ自ラ進テ政治大借款ト五百萬圓借款ト密接ノ關係アル次第ヲ裏書セルモノニシテ随テ本役ニ於テ如何ニ其無根ナルコトヲ弁解スルモ各方面カ日本ノ態度ニ對スル疑雲ヲ一掃スルコトハ容易ノ儀ニ無之候尤モ各団体代表者ニ於テハ依然本役ノ説明ニ満足スルモノ、如ク現ニ今朝露国団体代表者ハ本役ヲ來訪シ本件ニ關スル英字新聞ノ記事ニ談及ノ上自分ハ日本団体代表者カ過般団体会議席上ニ於テ説明セル次第ヲ十分信用シ何等ノ疑念ヲ挾マサル旨ヲ語リタルニ徴シテ彼等心理狀態ノ一斑ヲ知り得ヘク候ヘ共政府ノ議

候 敬具

四七四 九月二十七日

小池政務局長ヨリ  
久原房之助宛

興亜公司借款契約ノ中国側提出ノ改訂契約案

二付氣付ノ点指摘ノ件

附屬書 右氣付ノ点

(大至急私信半切)

拝啓陳者中山氏來電ニ係ル支那側提出ノ五百萬圓借款改訂契約案拝見致候右ニ関シ当方氣付ノ点別紙ノ通差進候間御閱覽相成度候本件ニ對スル貴方ヨリ中山氏ヘノ御返電案ハ一応大藏省ヘ御提出相成同省ト御協議ノ上發電相成候様致度尚御發電ノ上ハ当方ヘモ右御返電案ノ写御送付ニ預リ度此段得貴意候 勿々拝具

(附屬書)

興亜公司借款契約ノ中国側提出ノ改訂契約案ニ付氣付ノ点

第一号実業借款契約ニ関シ

一、水口山太平山兩鉱山共ニ之ヲ拋棄スルノ已ムヲ得サル場合ニ於テモ右兩鉱山ニ對スル我投資優先權ヲ留保スルコト必要ナルニ付契約前文ヲ例ヘハ

「支那政府ト興亜公司トノ間ニ九月九日締結セラレタル  
五百万円借款契約ハ支那政府ニ於テ是ヲ不便トスル事  
情アルニ因リ双方協議ノ結果水口山及太平山兩鉱山ニ  
関シ将来外国資本ヲ入ルル場合ニハ先ヾ興亜公司(或  
ハ久原)ニ協議スヘキコトヲ条件トシ左ノ如ク改訂  
ス」

ト改ムルカ又ハ此ノ趣旨ヲ一ヶ条トシテ契約本文中ニ挿  
入スルノ要アリ若シ支那政府ニ於テ対議會關係上是ヲ好  
マサルニ於テハ附帶契約中ニ挿入セシムヘシ

一、附帶契約ヲ適宜修正スルヲ得ルナラハ本契約ハ前記事  
項ヲ除キテハ大体此儘ニテ支障ナシト思考ス(勿論精鍊  
事業利益金ノ外ニ確實ナル担保ヲ提供セシムルヲ得ハ結  
構ナルモ)

第二号附帶契約ニ関シ

一、制鍊精鍊事業ヨリ生スル利益カ本借款ニ対スル唯一ノ  
確定担保タルヲ以テ右精鍊事業ニ対シテハ債権者ハ十分  
ノ干与権ナカルヘカラス

一、第一条第二条ニ依レハ支那政府ニ於テ製鍊事業經營ノ  
權利ヲ握リ久原ハ専ラ資本ヲ供与スルコトナリ居ルカ

シテ差支ナシト思考ス

四七五 九月二十七日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司借款契約ニ代リ制鍊買入精鍊公司業  
合辦ノ契約案ニ対シ中国議會ニ於テ反对ノ質  
問続出ノ件

第八四四号

興亜公司借款問題ニ関シ陳谷兩総長ハ二十六日衆議院秘密  
會議ニ出席シ其後谷総長ニ於テ本邦資本家側ト協議ヲ重ネ  
タル結果新ニ久原ヨリ六百万円ヲ支出シ利益折半其他ノ条  
件ヲ以テ制鍊買入精鍊公司業合辦ノ契約ヲ作製シ議會ノ承  
認ヲ経タル上ハ興亜公司トノ前契約ヲ取消シ得ベキ見込ナ  
ル旨大要ヲ報告シ議會ノ猶予ヲ求メタル処議場騒然反对ノ  
質問続出シ右ハ湖南安徽二省ノ鉱山権ニ比シ更ニ広大ナル  
利権ノ損失ヲ来シ民間金融ノ上ニモ重要ナル影響ヲ及ボシ  
合辦条件ニ就テモ政府側ニ於テ權利利益ノ侵害ヲ受クル虞  
アリ且ツ借款担保ノ代リニ事業經營ノ要求ヲ許スハ新ニ一  
ノ惡例ヲ造ルモノニシテ列国ニ対シ同様ノ口実ヲ与フルモ  
ノナリ等非難ノ重ナル点ナリシモ結局契約作製ノ上更メテ

之ヲ合辦又ハ業務請負ノ形式ニ改メシムルヲ得サルヤ  
一、何レニシテモ第八条精鍊スヘキ制鍊ノ数量及營業期間  
ニ関スル取極メハ十分ナリヤ制鍊六万噸ノ價格ハ約一千  
二百万円ナリトノ趣ノ処是レ丈ケノ制鍊製鍊ニテ借款金  
元利ヲ支払ヒ且營業資金ヲ還済シ尚余リアリヤ

一、若シ借款元利ヲ一ヶ年半年期限後ニ於テモ償還スル能ハ  
サル場合ニハ担保ノ基礎タル本精鍊事業ハ当然継続經營  
セラルヘキモノト認メラルルニ付此ノ意味ヲ明定シ置ク  
ノ要アルヘシ

一、合辦又ハ請負ノ形式ニ改ムルヲ得サル場合ニハ本事業  
經營ノ為ニスル久原ノ出資額ニ対シ何等カノ担保ヲ提供  
セシムルノ要アルヘシ即チ第十条清算ノ場合久原ノ出資  
償還不能ナラハ製鍊事業ノ引続キ經營ヲ許ストカ又ハ他  
ノ鉱山ニ関スル利権ヲ許ストカ何等カノ利権ヲ提供セシ  
ムルノ必要アラム

一、本契約ノ儘ニテハ第一条ト第十一条トハ矛盾ス第一条  
ニ依レハ一切ノ設備ハ当初ヨリ支那政府ノ所有物ニシテ  
第十一条規定ノ如ク政府ニ売却スヘキモノ無キ筈ナレバ  
ナリ合辦又ハ請負ノ形式ニ改メサル限り第十一条ハ削除

議會ニ提出スルヲ待チ再議スルコトナリタル由ナリ

四七六 九月二十七日 在長沙界領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

水口山合辦契約取消ノ報道ニ対スル湖南省ノ  
反響及之ニ対スル措置稟申ノ件

第一五五号

水口山合辦契約取消ノ報ニ接シタル湖南人ハ之レ全ク死ヲ  
以テ争ヒタル結果ナリト信シ鼻息スサマジキ勢ナルカ故ニ  
取消ヲ事実トスレハ其ノ原因カ湖南人ノ反对ニアラスシテ  
契約ノ成立上ニ欠陥アリシタメナル所以ヲ十分ニ了解セシ  
ムヘキ必要アリ若シ北京政府及日本側カ湖南人ノ反对ニ辟  
易シタルモノト信セシムルハ将来事毎ニ我意ヲ張ルノ風潮  
ヲ生シ禍根ヲ残スヘシ此際水口山鉱物抵当借款或ハ水口山  
以外ノ官鉱局所有ノ鉱山合辦開掘等ニ関シ追テ商議ヲナス  
ヘシトノ条件位ヲ残シ置クノ余地ナキヤ兎ニ角此ノ儘全然  
手ヲ引クコトハ将来水口山問題等ニ愈々困難ヲ増スヘキハ  
必然ナリ

北京ヘ電報セリ

六 对中国借款關係雜件 (一) 四七七 四七八 四七九

四七七 九月二十八日

石井外務大臣ヨリ  
在英国珍田大使宛(電報)

興亜公司借款ニ付四国団側ニ対シ弁明差控へ

居ル旨通報ノ件

第三五〇号

往電第三四八号興亜公司借款ニ対スル小田切弁明取計方ノ有無ニ関シ九月二十七日在支公使ヨリノ回電ニ依レハ未ダ四国団側ヨリ何等表立チタル質問ナキヲ以テ小田切ニ於テ弁明方差控へ居ルモ過日香上銀行北京代表者 Hillier ニハ小田切ヨリ全然非公式ニ往電第三四一号ノ極大体ヲ説明シ置キタル趣ナリ

四七八 九月二十九日

石井外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

興亜公司代表中山ノ帰朝ニ関シ林公使意見問

合ノ件

第三三七号

興亜中山ヨリ久原へノ電報ニ依レハ支那政府提出ノ条件通りニテモ議會ノ通過覺束ナキ迄ニ行詰リタルヲ以テ中山ハ直ニ帰朝セントストノコトナル趣ニテ久原ニ於テハ同人帰

總支配人代理 武内 金平(印)

外務省

小池政務局長殿

拝啓左記事項ニ関シ別紙写ノ通り在北京弊行小田切取締役ヨリ報告有之候間茲ニ供貴覽候 敬具

一、興亜公司借款ニ関シ団体銀行ヨリ支那政府説明要求ノ件 (九月二十日付 第二一九九号)

一、興亜公司借款ニ関シ団体銀行ノ説明要求書ニ対スル支那政府請書面送付ノ件

(九月二十三日付 第二二〇一号)

(附屬書一)

九月二十日附在北京小田切正金取締役ヨリ井上頭取宛報告写  
興亜公司借款ニ関シ団体銀行ヨリ中国政府ニ説明要求ノ件

頭第5/百九十九号

大正五年九月二十日

於北京支店

取締役 小田切万寿之助

本店

頭取 井上準之助殿

六 对中国借款關係雜件 (一) 四七九

四二二

朝ニ異存ナキモ当方ノ指揮ニ從ヒタキ旨申出テタル処貴地政局平定ニ帰スル迄何等取極メヲモナサズ問題ヲ寝カシテ本人ヲ帰ラシムルコトモ面白カラザル様思ハル、ガ其辺ニ関スル貴官御意見承知シタル上ニテ決定セシメタキニ付右ニ関スル御見込至急電報アリタシ

四七九 九月二十九日

武内正金銀行總支配人代理ヨリ  
小池政務局長宛

興亜公司借款ニ関シ四国銀行団ノ中国政府へ

説明要求ニ付在北京小田切正金銀行取締役ヨリ

リノ報告写送付ノ件

附屬書一

九月二十日附在北京小田切正金取締役ヨリ井上頭取宛頭第一九九号

興亜公司借款ニ関シ団体銀行ヨリ中国政府ニ説明要求ノ件

二

九月二十三日附在北京小田切正金取締役ヨリ井上頭取宛頭第二二〇一号

興亜公司借款ニ関シ団体銀行ノ説明要求書ニ対スル中国政府請書面写送付ノ件

大正五年九月廿九日 第八七号

横浜正金銀行

興亜公司借款ノ件ニ関シ当国政界ノ波瀾ヲ惹起シタル始末ハ過般來隨時御報道致置候通りニ有之而シテ議會ニ於ケル財政農商二總長ノ説明ハ団体銀行ノ耳目ニ入りシヲ以テ彼等ハ早晚之ニ関シテ或行動ヲ取ラサルカト憂慮シツ、アリシ処果セル哉昨十九日午後突如トシテ香上銀行ヨリ団体銀行會議開催ノ通知ニ接シ而シテ其席上ニ於テ英仏露代表者ハ今般新聞紙上ノ伝フル所ニ拠レハ日本興亜公司ハ支那ト借款契約ヲ締結シ其契約中ニ第一公司ハ政治大借款ノ成立ヲ担承スルコト、第二同借款資金ノ内ヨリ今次借入レタル五百万円ヲ返済スルコト、第三大借款ノ供給ヲ条件トシテ両鉱山ノ權利ヲ獲得スルコトヲ規定シアル由ナルカ若シ之ヲ事實トスルトキハ是レ明ニ支那ニ対シ政治借款ヲ供給セシモノニシテ今回支那政府ヨリ五国団体へ条件のニ申込ミタル一千万磅借用ノ提議ト一致セサルノミナラス善後借款契約第十七条ノ規定ニモ抵触スルモノナレハ団体銀行ノ立場トシテ輕々ニ之ヲ看過スル能ハス宜シク支那政府ニ対シ該借款契約条件ニ関シ説明ヲ求メテハ如何ト申出テ本役ハ之ニ対シ該借款ハ既ニ前回會議ノ席ニ於テ言明セル如ク日本銀行団ト興亜公司トハ何等交渉ナキモノナルコトヲ再説

四二三

セル後彼等ニ向ヒ自分ノ聞知スル所ニテハ與亜借款ハ單純ニ実業ノ開發ヲ主トシ何等政治上ノ意味ヲ包含セサルカ如シ今仮リニ新聞所報ノ如ク将来大借款ノ供給ヲ約定セシモノトスルモ該公司ハ大借款ニ関シテ日本団体銀行ト何等關係ナキ以上ハ右等ノ規定ハ畢竟架空のニシテ事實毫厘ノ効力ナク団体代表者ハ之ヲ重要視スルノ要ナシト認ムル旨ヲ婉曲ニ述ヘ彼等ノ意ヲ翻サンコトヲ力メタルモ其効ヲ奏セサリシハ遺憾ノ至リニ有之候

是ニ於テ本役ハ自己ノ取ルヘキ方針ヲ一考セサルヲ得サル立場ト相成候原来與亜公司契約中ニ誤解ヲ招ク条項アルコトハ衆見ノ一致スル所ニシテ各代表者ノ論理ハ一切ニ之ヲ拒否スル能ハサル而巳ナラス現狀ノ下ニ於テ本役カ右提議ニ強テ反対スル結果ハ彼等ノ疑念ヲ深くシ本邦銀行団ノ地位ヲ不利ニシ延テ本邦ノ信用ニモ悪影響ヲ与フル恐アルニ付到底彼等ノ主張ハ之ヲ容ル、ノ外ナシト思惟セシモ此機會ニ於テ本役ノ素論タル「リー、ヒッギンソン」借款ニ対シテモ亦同一ノ手段ヲ取ルヘキコトヲ提議シ若シ彼等ニシテ此提議ニ不同意ノ色アルトキハ與亜借款問題ヲ同時ニ葬リ去ラント欲シ此旨趣ノ下ニ「リー、ヒッギンソン」借款

一般ノ疑雲ヲ一掃スルニ於テ大効アルハ本役ノ確信スル所ニシテ林公使ノ承認ヲ与ヘラレタル所以亦此ニ在ルナラント想像致候

過般頭第百九十五号信ヲ以テ御送付ニ及ヒタル支那政府ニ対スル団体代表者回答案并ニ倫敦宛電信案ハ既ニ各団体銀行ニ於テ自国公使ノ承認ヲ得タルニ付予定ノ通り一昨十八日夫々發送ノ手續ヲ了シ候其際右二件ノ日ヲ十八日ニ改メ置候間左様御承知相成度候右報告旁此段申進候 敬具

註 別紙第一号及第二号省略ス前出九月二十一日附林公使ノ機密第二六五号附属書参照

(附屬書二)

九月二十三日附在北京小田切正金取締役ヨリ井上頭取宛報告  
写 與亜公司借款ニ関シ団体銀行ノ説明要求書ニ対スル中国政府  
請書面写送付ノ件

頭第5/二百一號

大正五年九月廿三日

於北京支店

取締役 小田切万寿之助

本店

六 对中国借款關係雜件 (一) 四七九

問題ヲ提起セシニ最初彼等ノ一部ニハ聊カ難色ヲ示シタルモ結局異議ナク本役ノ意見ヲ納レ兩者ヲ併セテ支那政府ヘ質問スルコトニ決シ別紙第一号書面案ノ通り説明要求書ヲ立案致候

此ニ至リ本役ハ本件ノ実行前一応帝国公使ノ意見ヲ叩クノ必要アル旨ヲ述ヘテ散会シ後右草案ヲ以テ林公使ノ閱覽ニ供シタル処公使ニ於テモ事情已ムヲ得サレハ代表者決議ニ同意ヲ表スル外ナカルヘシト承認ヲ与ヘラレ候因テ各代表者ハ別紙第一号書面ニ署名ノ上之ヲ財政總長ニ送付シ一面倫敦ニ対シ別紙写第二号ノ通り明日發電致ス筈ニ有之候原来與亜借款ハ既ニ其成立以前ヨリ日本団体ニ於テ同公司ト多少ノ交渉アルカ如キ流説アリシカ為メ本役ニ於テハ不尠迷惑ヲ感シ又其完成セル契約条項中ニハ意外ニモ政治大借款ト關係アル規定ヲ包含スルカ為各方面ニ於テ本邦ノ態度ニ対シ自然多少ノ疑惑ヲ抱クニ至リシモノ、如ク一面本日発行英字新聞中ニハ本行ニ果ヲ及ホサ、ルカト掛念セラ、論説モ掲載セラレ一般ノ形勢何トナク陰鬱ノ状ヲ呈シ候去レハ此際本役カ他ノ代表者ト協同シテ與亜借款問題ニ関スル説明ヲ支那政府ニ要求スルコトハ我立場ヲ解明ニシ

頭取 井上準之助殿

曩ニ與亜公司借款ニ関シ四国団体代表者ヨリ財政總長ニ対シ説明要求ノ書面提出セル次第ハ既ニ御承知ノ通りニ有之候処昨廿二日財政部ヨリ不取敢別紙写書面ノ通り代表者書面入手ノ上同書面内容ニ関シテハ適當ノ考慮ヲナスヘキ旨回答致越候  
右及御報告候 敬具

(別紙)

写

與亜公司借款ニ関スル説明要求ニ対スル財政部ノ回答写

Ministry of Finance,

Peking,

22nd September, 1916.

Messrs. Hillier, Saint Pierre,  
de Hoyer and Odagiri,

Sirs,

I am directed by the minister of Finance to acknowledge the receipt of your favour of the 20th instant, and to state that the matter referred therein will receive careful consideration.

I have the honour to be,

Sirs,  
Faithfully yours,  
(sd.) Luther M. Zee.  
Secretary.

四八〇 九月三十日 在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ノ水口山ニ関スル条件放棄ニ付

黄興ニ伝達ノ件

第二九〇号

貴電第一一八号ノ趣今朝黄興来訪ノ際篤ト申伝ヘタル処同人ハ数日前参謀本部ヨリノ消息トシテ青木中将ヨリ該条件抛棄ノ内意アルヲ伝ヘラレタルニ付既ニ譚延闓等ニ電報シ置キタル次第ニテ此上湖南省民等ガ無用ノ反对ヲ繼續スルコトアラザルヘキヲ信ズルモ尚御趣旨ノ存スル所ハ自分ヨリ説明ノ上誤解ナキ様十分尽力スヘク政府ノ御好意ハ大ニ感謝スル所ナル旨申居リタリ將又本田親清ハ兩三日来滞在シ居リ同鉱山ノ件ニ付黄興ニモ面談スル管ナル旨内話シ居タルモ今日迄尚面会ニ至ラサル由ニテ同人ノ余リ信用ヲ措キ難キコトハ念ノ為内々黄ニ伝ヘ置キタリ尚本田ハ本日午

後近江丸ニテ出發帰朝ノ筈  
在支公使へ電報セリ

四八一 九月三十日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

興亜公司代表中山ノ帰朝ヲ可トスル旨回申ノ

件

第八五五号

貴電第三八七号ニ関シテハ興亜借款交換条件制錢買収鍊銅所設立案ニ対シテモ昨今可ナリ強キ反对アリ中ニハ之ヲ以テ却テ水口太平兩鉱山ノ条件ヨリモ重大ナルモノト考ヘ盛ンナル反对ヲ試ミツツアルモノアリ從テ我方ニ於テ太平府鉄山合辦ノ件ヲ保留シ更ニ鍊銅所案ヲ貫徹セントスルコトハ議會ニ於テ承認ヲ得ルコト頗ル困難ナランカト考フ其辺ノ事情ハ篤ト本社ニ面陳スルニアラザレバ真相ヲ通ジ難キヲ以テ中山ハ支那側トハ全然話ヲ切ラズ先方ヘハ日本側ノ条件緩和ノ為一時帰国スト挨拶シアル趣ナレバ契約改訂談ノ全ク打切トナラザル限り其事情ノ明カトナルニ於テハ議會ハ左迄當局ヲ窮追スル様ノコトナカルベク推測セラルル從テ本件力直ニ政変ヲ来スノ原因トナルガ如キコト之レナカ

ルベキ見込ナルニ付中山ヲシテ此際一応帰国シ本社ノ意見ヲ定メシムルコト得策ナラント考フ從テ中山ハ本夕出發ノ筈

四八二 十月六日 在中国林公使ヨリ  
石井外務大臣宛

興亜公司借款修正契約ニ関シ中国全国商務總會聯合会ヨリ中国国会へ提出ノ反对請願書要領等掲載ノ「ペキン・ガゼット」紙切拔送附ノ件

附屬書一 右請願書要領

二 借款修正契約文

三 右修正契約ニ関スル社説

公第二二三号

(十月十一日接受)

大正五年十月六日

在支那

特命全權公使男爵 林 権 助(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

制錢鑄解等ヲ条件トシタル本件借款修正契約ニ対シ全国商務總會聯合会ヨリ国会へ提出シタル反对請願書ナルモノノ要領別紙甲号ノ通並ニ右借款修正契約文ナルモノ別紙乙号

六 对中国借款關係雜件 (一) 四八二

ノ通及右ニ対スル評論別紙丙号ノ通り何レモ本日發行ノ「ペキン・ガゼット」ニ掲載セラレ候ニ付何等御参考迄及送付候条御査閲相成度候也

(附屬書一)

甲号

中国全国商務總會聯合会ヨリ中国国会へ提出ノ請願書要領

THE CHINO-JAPANESE CASH SCHEME.

OPPOSITION OF THE UNION OF  
CHAMBERS OF COMMERCE.

With reference to the agreement appearing in the next column respecting the smelting of brass cash by the Japanese, we translate the more material passages from the petition submitted by the Union of Chambers of Commerce to Parliament, strongly opposing the proposed scheme:

".....The provinces have always been in need of considerable quantities of subsidiary brass or copper coins for the reason that large amounts of such coins have been constantly exported by the Japanese from China. The effect of such exports of subsidiary coins on the people has been very burdensome. The liveli-

hood of our people is on a very primitive basis and if the lowest denomination of subsidiary coins is to be eliminated, as provided by agreement with the Japanese, no other means will be available to save the financial crisis. A dearth of subsidiary coins will take place and a panic will surely result. Under no circumstances should the proposed scheme be allowed to materialise. The benefit of the mines is temporarily buried under the earth and the disposal of the same would not so immediately affect the people, whereas the smelting down of brass cash will at once affect the common people as they depend upon it.....When the brass cash is all smelted, there will certainly be an increased demand for copper coins. Now the price of copper has increased to an abnormal extent. What actual loss the Government will eventually suffer when the demand for the copper coin becomes pressing, can well be imagined.....According to the report of the Government, the quantity of brass cash to be smelted, is limited to 60,000 tons. On investigation we find that the net profit from this amount will be not less than twenty million dollars. The attached details will show this clearly. Is it wisdom to give away this

immense amount to the Japanese within the short space of one year and a half for a small loan of Yen 5,000,000?.....This Union has therefore resolved to petition your Honourable House to frustrate the scheme."

#### Particulars.

1. For every 36 strings of cash, 100 catties of pure brass can be produced. The rate is 5 1/2 catties per every string of big cash.
2. The brass cash necessary to yield 100 catties of pure brass is worth about \$36.40. Usually brass cash is purchased by the catty at the rate of 200 to 300 cash per catty.
3. The actual expense to smelt cash and refine the material into 100 catties of pure brass is about \$ 10. This information is secured from actual experience in Hupen.
4. The expense of transporting brass cash worth \$36.40 is about \$5.46. The rate is 1.5 per cent of the actual cost.
5. Total actual cost to produce 100 catties of pure brass—\$51.86.

Note: The market price for brass is about 71s.

55.00=\$78.00. The net profit is therefore \$26 per 100 catties. The agreement provides for 60,000 ton of brass cash, i.e. 1,008,000 times 100 catties. The total net profit will therefore be over \$26,000,000.

(按國幣11)

200

銀圓公同借款總目錄案次

### THE CHINO-JAPANESE INDUSTRIAL LOAN.

#### REPORTED TEXT OF THE REVISED AGREEMENT.

*The following is stated to be the text of the revised agreement respecting the Chino-Japanese Industrial Loan, against which Parliament is energetically fighting:*

#### The Loan Agreement.

- Art. 1. The total amount of the loan is Yen 5,000,000.
- Art. 2. Interest shall be at the rate of 6 per cent per annum.
- Art. 3. The loan must be repaid within three

六 按中國借款關係條件 (1) 四<11

years and a half with the profit derived from smelting brass cash and refining brass. Any deficit for the purpose will be made good be the Chinese Government.

Art. 4. The proceeds of this loan shall be used for the explicit purpose of refining brass from smelted brass cash.

Art. 5. The principal of the loan shall be paid by the Yokohama Specie Bank at 94 per cent.

Art. 6. The agreement for this loan must be approved by the parliament of China.

Art. 7. The agreement for the 5,000,000 Yen loan concluded on September 9th, 1916, shall automatically be cancelled on the day this agreement is signed.

Art. 8. The Chinese text of this agreement shall be held authoritative.

#### Cash Smelting Agreement.

Art. 1. A factory for smelting cash and refining shall be established at Tientsin.

Art. 2. The director and other employees of the factory shall be selected and appointed by the Chinese contracting party.

Art. 3. After supplying the refined products to the Chinese Government direct, the remaining products

shall be sold at current market price.

Art. 4. If the Chinese Government should itself be short of capital to purchase brass, funds shall be furnished by Chiu-yuan [Representative of the Asiatic Development Company].

Art. 5. The capital of the factory, \$6,000,000, shall be furnished by Chiu-yuan.

Art. 6. The profits from smelting and refining shall be equally divided between the Chinese and Japanese contracting parties.

Art. 7. The factory shall be established within 6 months. Before the establishment of the new factory and when the new factory finds itself in need of productive capacity, the Chiu-yuan factory in Japan may be utilised.

Art. 8. The amount of cash to be purchased is limited to 60,000 tons. The question whether this will be continued after one year and a half will be decided by mutual consent.

Art. 9. Within the period of this agreement the Chinese Government shall not conclude a similar agreement with a third party for a similar purpose. This does not include the case of officially conducted fac-

ories.

Art 10. Without the consent of Chiu-yuan, the Chinese Government shall not use this undertaking as security for any other loan.

Art. 11. After the expiry of this agreement, the Chinese Government may purchase the assets of the factory at a reasonable price.

Art. 12. Regulations governing the conduct of business shall be fixed separately.

Art. 13. The agreement shall come into force on the day it is signed.

(密藏補川)

四〇〇〇〇

興業公司借款關係雜誌 (1) 四〇〇〇〇

## THE JAPANESE LOAN.

### ITS ORIGIN AND THE MEANING OF ITS REVISION.

It is unfortunate that the Government is unable to issue a full and authoritative statement on the Japanese loan, explaining the circumstances under which it came to be negotiated and the reason why the con-

clusion of the transaction is a practical necessity. There is no doubt that the publication of such a statement would dissipate much of the popular misunderstanding on the subject and would facilitate a better comprehension, on the part of the public, of the difficulties which have led the Government to negotiate the loan. We know that it is not at all easy for the Authorities to make public all the reasons which have rendered the conclusion of the loan a necessity. But it seems to us that some statement can be prepared which—whilst not altogether complete—will convince the public that the transaction is not so utterly irresponsible and unwise as it has hitherto appeared to most people.

In so far as the transaction sought to involve the Hunan and Anhui mines, we have expressed the view that it was a mistake. And as long as the China policy of Japan continues to express itself in terms of demands like the Chengchiatun demarche, we have to lay it down that any transaction which extends Japanese interests in the Yangtse Valley is in conflict with the principle of national safety. We can trust no nation in the regions of the Yangtse or elsewhere in China

which pursues an inimical policy like that which finds expression in the Japanese demands of 1915 or in the demarche presented in connexion with the essentially trumpety affair of Chengchiatun. And until Japan gives us convincing proofs of a real reversal of the policy which she applied towards Yuan Shih-Kai, it would be the grossest folly to tempt her by opening the historic basin of the Yangtse to the exploitation of her people. Let her—if she can—force her entrance into the region. But let us not, by our own act, invite her into an area where the things that she lusts for are in plenty. That is madness.

### FINANCING THE POST- REVOLUTIONARY SETTLEMENT.

Subject to the foregoing view, it does not appear that much of the criticism directed against the loan is fully merited. When Dr. Chen Chin-tao assumed office as Minister of Finance, he was handed an empty treasury with no prospect of immediate resumption of provincial remittances. In order to meet the immediate needs of the Administration, he managed to secure funds which would never have been available for the use of the Government if he did not command the respect and

confidence of those who came, at his request, to the assistance of the Authorities. He next turned to the consideration of the question of financing the post-revolutionary settlement. That could only be effected by the negotiation of a foreign loan. It was plain that foreign money could not be gotten from Europe—whilst that continent continued in flames—and that the necessary funds were to be obtained only in the United States and in Japan. For three months efforts were made to negotiate a loan in America. But in spite of the generous assistance of the Washington Government, these efforts proved barren.

Just as the fruitless quest for American gold ended, the representatives of the Japanese financial group known as the Asiatic Development Company proposed to the Chinese Government the revival of a loan proposition which was under negotiation with Yuan Shih-kai some weeks before the latter's complete collapse. The Japanese group undertook to finance the tottering ruler on condition that the Hunan and Anhui mines were brought into the transaction on terms involving their practical cession to the Japanese. Although the temptation was great, the Tokyo Government vetoed

the transaction, as its conclusion would have defeated the Japanese object in securing the suspension of payment of the Salt surplus. The renewed offer of the Japanese was considered afresh by the Authorities; and following a radical revision of the terms arranged with Yuan Shih-kai, the loan eventually assumed the form of the present Japanese loan in its original sense of an "advance" of Yen 5,000,000 with the right, in certain events, to the Japanese to supply necessary capital for the working of the Anhui mines under Chinese management and to subscribe a certain proportion of the share-capital of the Hunan lead mines under joint Chinese and Japanese management.

#### THE BRASS CASH PROPOSAL.

Owing to the public opposition to the inclusion of the Hunan and Anhui mines in the transaction, the Government has approached the Asiatic Development Company to replace the mining rights by a sort of limited franchise relating to the smelting of brass cash. We believe the particulars which we publish in another column of the terms offered in this connexion are more or less correct, although the same are not to be accepted as authoritative. And it seems that the

data given in the petition of the Union of Chambers of Commerce, which we also publish, are largely reliable, though the calculation of profits based on those data appear somewhat excessive in view of the known results at present obtained by the Government Authorities in Shantung and at Tientsin from the smelting of brass cash. But even assuming that the profits on every ton of brass cash smelted are at the rate of \$ 200—the figure now obtained in Shantung and Tientsin—the profits on the 60,000 tons of brass cash, which the Government is prepared to allow the Japanese to smelt for joint account, will be \$ 12,000,000. At first blush, it seems monstrous that the Japanese should be able to net a profit of \$ 6,000,000—half of the total, the other half going to the Chinese Government—in connexion with a loan of 5,000,000 yen or dollars which has to be repaid and which bears interest at 6 per cent. and is issued at 94. It must, however, be remembered that this estimate of profit depends upon the continuance of the existing market conditions which have sent up the price of copper to a phenomenal level. And these conditions are entirely related to the war in Europe with its colossal demand for the raw ma-

terials of the things of death. Let the war cease by Christmas—as some exceptionally optimistic people think—and what now looks like a profit of \$ 12,000,000 or \$ 26,000,000 (according to the calculation of the Union of Chambers of Commerce) will disappear as fast as a summer's cloud. And in that event the Japanese would be fortunate if they did not suffer a financial loss in the capital sunk in a smelting plant, estimated to cost \$ 600,000. Besides this element of risk in the transaction, there is the further consideration that the estimated profit on the deal calls for the investment of sums in plant and in the purchase of brass cash which neither the Chinese Government nor any Chinese group of capitalists are in a position to meet. It is an easy and obvious calculation to sit down and multiply on paper 60,000 by \$ 200; but to translate this sum-product into either gold yen or silver dollars demands the ready use of millions of money as well as business capacity and efficiency. And it is highly important to bear in mind that the estimated profits can be made now and whilst the war lasts, never afterwards. To allow the thought of the Japanese making a profit of \$ 6,000,000 to defeat the proposal in question

is to deprive the Government of a sum of \$ 6,000,000 which is only possible on condition of the Japanese investing the necessary capital and applying the necessary business capacity now and whilst the abnormal price of copper continues as a result of the war in Europe. We cannot put the point more clearly.

As regards the possibility of an economic disturbance where the brass cash is the medium of exchange, the Government has been advised that the "vacuum" created by the withdrawal of brass cash from any district will be automatically righted by the introduction of the medium to be accepted in purchase of the brass cash. It is pointed out that some form of money—copper cents, for instance—must be paid to those who sell their brass cash. We think this view is largely true; and the possible danger of speculators interfering with the operation of this economic law of equilibrium can be guarded against, to a very great extent, by the enactment of some Truck Act, prohibiting the purchase of brass cash in the areas to be exploited except in exchange for some form of money. In case the revised agreement is approved by parliament, we suggest that special legislation in this sense should

be immediately enacted. The danger of "incidents" being created in the event of the Japanese being allowed to go about the countryside to purchase and collect brass cash has been eliminated by the Government insisting upon the purchase and collection of the cash by special Chinese agents who will deliver the same to the smelting factory to be erected at Tientsin.

四八三 十月九日 在天津吉田總領事代理ヨリ  
石井外務大臣宛

興亜公司借款ニ関シ順直省議會反対通電ノ件

附屬書 十月七日附在天津吉田總領事代理ヨリ在中國林

公使宛北公第六三三號

公信第二七一號 (十月十六日接受)

大正五年十月九日

在天津

總領事代理 吉田東作(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本月七日付林公使宛北公第六三三號往信写送付

一、興亜公司借款問題ニ関シ順直省議會議決ノ件

(附屬書)

写

北公第六三三號

大正五年十月七日

在天津

總領事代理 吉田東作

在支那

特命全權公使男爵 林權助殿

興亜公司借款問題ニ関シ順直省議會議決ノ件

順直省議會ハ六日大總統國務院並ニ參衆兩院ニ向ケ今次借款カ初メハ鈔務ヲ抵押シタルモ国会ノ反対ニ遇フニ及ンテ更ニ制錢ノ収買鑄化ヲ以テ之ト交換シタル処本契約ノ成立ハ權利ヲ喪失シ人民ヲ擾害スルコト詎大ナリ現ニ日本人ハ恃ムヘキノ条約ナキニ拘ハラス已ニ各処ニ在リテ私カニ制錢ヲ収買鑄化シツ、アリテ若シ本契約ニシテ成立センカ日本ハ更ニ籍口スル所アリテ任意ニ旅行シ随意ニ居住シ勢ヲ恃ンテ鄉民ヲ凌轢シ其結果幾多ノ忌ムヘキ交渉問題ヲ惹起スルノ虞アルノミナラス且ツ人民ノ生計問題ト重大ナル關係アルヲ以テ直隸省人民ハ絶対ニ承認セス望ムラクハ法ヲ設ケテ拒絶シ以テ隱患ヲ杜絶シ利權ヲ挽回センコトヲ希

六 对中国借款關係雜件 (一) 四八四 四八五

望スル旨電報シタリ

右不取敢何等御參考迄及報告候 敬具

本信写送付先 石井外務大臣

四八四 十月十一日 寺内兼任外務大臣ヨリ  
在中國林公使宛(電報)

中国衆議院十月五日ノ秘密會議ニ於ケル興亜

公司借款審議ノ模様問合ノ件

第四〇二號

当地東京通信社ヘ十月五日衆議院ノ秘密會議ニテ陳谷西総長ヨリ五百万円借款變更出来サル事情ヲ述ベ多少ノ喧騒アリシモ議員ノ多数ハ政府ノ意ヲ諒トシ散会セル旨ノ貴地發電報到達シタル趣ノ処右ハ代表者貴地ニ在ラサル故条件變更交渉出来ストノ事情ヲ述ヘタル次第ナルヘント思ハル、モ右會議ノ真相御取調ノ上電報アリタシ

四八五 十月十二日 在中國林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

十月五日中国衆議院秘密會ニ於ケル興亜公司

借款審議ノ模様報告ノ件

第八八五號

貴電第四〇二号ニ関シ本月五日衆議院秘密會議ニ於テハ谷陳兩総長出席ノ上日本側代表者帰国ノ為其後ノ協議中止セラレ居ル為廢約改約何レモ未タ明答ヲ与フルノ域ニ達セサル旨ヲ答ヘ結局不得要領ニ了リ前回ニ比シ別段ノ変化ヲ見サリシ次第ナリ当日国民党側議員ハ兩総長ノ立場ヲ掩護スル為反対側ノ質問ヲ妨害シ為ニ議場ノ喧噪ヲ来シタルハ事実ナルモ政府ノ答弁ニ満足シタル次第ニハアラス本件ハ議會ノ反対以外商務總會聯合会及北数省ノ同盟反対アリ段總理側ニ於テ確平タル態度ニ出テサル限り其解決ハ依然トシテ困難ナルヘキカト思考セラル

四八六 十月十九日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

北京天津漢口上海ノ四商務總會ノ一千万円拠出ニヨル興亜公司借款取消ノ新聞報道ニ関スル件

第三一三号

北京天津漢口上海ノ四商務總會ヨリ一千万円ヲ醸出シテ政府ニ貸与シ日本ノ五百万円借款ヲ返済シ其契約ヲ取消サシメントスル由ノ新聞電報ニ関シ当地ノ商務總會員ニ就キ其

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

興亜公司五百万円借款中礦山条件ニ対スル反対ノ余響トシテ制錢改鑄ノ条件ニ就テモ議會ハ勿論一般商民間ニ反対ノ氣勢漸ク募リ先般来北京ニ開会中ノ全国商業會議所聯合会ハ興亜条件ノ如ク六万噸ヲ限り日本人側ニ煉鑄セシムトセハ少クトモ二千六百余万元ノ利益ヲ見ス見他人ニ付与スルモノナリトテ其概算統計ヲ掲ケ三大害ヲ歴叙シ此契約条件ノ実行スヘカラサルモノナルコトヲ述ヘ兩院ニ請願書ヲ提出シ次イテ最近ニ至リ同聯合会ハ更ニ一ノ請願ヲ為スニ至レリ其称スル処ニヨレハ興亜公司借款ニ関スル改鑄条件トシテ失フ所ノ数千万円ノ損失ハ尚害ノ小ナルモノアルモ之ニ因ツテ生スル經濟上ノ恐慌ニ至リテハ其害至大ナルモノアリトシ同聯合会ヨリ自ラ一ノ「シンジケイト」ヲ組織シ制錢ノ收買改鑄ヲ為シタシトノ事ニテ請願条項ハ左ノ如クニ有之候

(一) 銀公司ハ政府ト制錢合煉辦法ヲ妥定シ銀五百万円ヲ政府ヨリ借入ルヘク政府ハ国庫証券ヲ發給スヘシ其返済利率

六 对中国借款關係雜件 (一) 四八八

実否ヲ確カメタルニ漢口ニ於テハ未タ斯カル協議ヲ受ケタルコトアラザルガ故ニ右電報ハ何者カ為ニスル所アリテ捏造セシモノナラント云ヘリ  
北京ヘ転電セリ

四八七 十月二十日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

中国衆議院ニ於テ全国商務總會聯合会ノ制錢精鍊所設置ノ請願採択等ノ件

第九一七号

十九日衆議院ニ於テ制錢買収ニ関スル建議案及同精鍊所設置ニ関スル全国商會聯合会請願ノ件等ヲ議決シタル上既報張勳查辦案ヲ大多数ニテ特別審查委員ニ附託スルコトニ決定セリ

四八八 十月二十日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

中国全国商務總會聯合会ノ自ラ制錢改鑄ヲ行ハントノ請願中国衆議院通過ニ付報告ノ件

公第二三四号

(十月廿六日接受)

大正五年十月二十日

等ハ日本借款原案ト同様ニ双方ヨリ協定スヘシ

(一) 購煉ノ資本ハ均シク銀公司ヨリ籌備スヘシ

(二) 制錢ノ購運及化煉ハ均シク公司ノ辦理ニ帰シ政府ハ員ヲ派シ之ヲ監督ス

(三) 銀公司購運ノ制錢ハ政府ヨリ護照ヲ發給シ地方長官ハ隨時之ヲ保護スヘシ

(四) 毎処ヨリ制錢若干ヲ運出スレハ公司ヨリ銅貨若干ヲ運入シテ恐慌ヲ救フヘシ

(五) 政府ヨリ造幣廠ヲ指定シ公司之ヲ商辦シ政府員監督ノ上一厘、五厘、一仙ノ銅貨ヲ專造シ以テ分佈ニ供ス但銅貨鑄造額ハ制錢鑄造額ト相符合シ多造スルヲ得サルモノトス

(六) 公司ハ一切ノ費用ヲ引去リ其純益ヲ政府ト平分ス鑄造ノ銅貨ノ費用及損失ハ政府之ヲ担任スヘシ

(七) 制錢及廢銅ノ輸出ヲ禁止シ以テ外人ノ密買ヲ杜クヘシ  
右請願書ハ同聯合会會長タル衆議院議員呂達先ノ紹介ニヨリ提出セラレ請願委員審理之ヲ受理シ十月十九日ノ日程ニ上サル此日議員錢崇墉等ノ提出ニ係ル「制錢ヲ收買シ藉ツテ以テ新幣制ヲ籌建シ以テ漏卮(外國流出ノ損失)ヲ杜チテ国財

ヲ裕ニスルノ建議案」モ同シク日程ニ上サレ議員何人ハ前請願案ト合併討議スヘキコトヲ主張シタルモ表決ノ結果賛成者少ナク同案ハ其儘委員附托トナリ次イテ本請願案ヲ討議シタルニ手続上更ニ之ヲ審査委員ニ附托シタル上議會ヲ經由スヘシト主張スルモノアリタルモ財政上外交上重要ノ關係アレハ速ニ妥定ノ辦法ナカルヘカラストノ説盛ニシテ結局表決ノ上本請願案ヲ通過シ直チニ政府ニ咨送シテ其採用ヲ請フコト、相成候

政府カ此請願案ニ対シ果シテ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ將又請願案項第八制錢ノ輸出禁止ハ兎モ角廢銅ノ輸出禁止ノ如キハ條約ニ抵触スル次第ナルヲ以テ與亜借款關係ト共ニ篤ト研究注意ヲ要スル事ト存候

右請願案通過ノ次第ハ往電第九一七号ヲ以テ不取敢及電報置候得共尚本件ノ由來成行等茲ニ及報告候也

四八九 十月二十八日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

興亜公司借款五百万円返済資金繰出ニ漢口商務總會ノ協力ニ關スル件

第三一八号

出セリ其要旨左ノ如シ

陳谷兩總長ハ主管閣員ノ名義ヲ以テ與亜公司五百萬元借款ヲ契約シ安徽ノ太平山鉄礦湖南水口山鉛礦ニ關スル利益ヲ以テ報酬條件ニ充テ且ツ四国団大借款ノ援助ヲ為サシムト云フ抑モ約法第十九条ノ規定ニヨレハ公債ノ募集及国库負担ノ契約ハ国会ノ議決スヘキモノナルニ国会ノ現ニ開會中ナルニ悍然トシテ顧ミス国会ノ議決ヲ求メス之レ約法ヲ無視シ国会ヲ蹂躪シタルモノ而シテ該總長等ハ国会ニ出席答弁ノ時一度ナラス前渡云々ヲ以テ欺罔ヲ事トシ國人ノ究詰ニヨリ更ニ制錢收買ノ仮契約ヲ改訂ス朝三暮四ノ伎倆國人ノ痛惡スル所況ンヤ既ニ期ヲ限リ議會ノ議決ヲ求ムヘシト称シナカラ今ニ至ルモ交付セス荒謬ノ極也又況ンヤ太平山、水口山ノ兩礦ハ均シク民有財産ニシテ約法ノ保障アルモノ閣員ヲ以テ之ヲ外人ニ貢ク違法誤國ノ甚シキモノナリ前清光緒六年崇厚ハ全權大使ヲ以テ伊犁條約ニ調印シ輿論ノ攻撃彈劾ヲ受ケ清廷震怒革職之ヲ処分セリ寡人政治ノ時代猶且然リ民主共和ノ今日ニ於テヤ陳錦濤、谷鍾秀ハ違法失職責ノ逃ルヘキナキニヨリ約法第十九条ニヨリ本彈劾案ヲ提出ス云々

六 对中国借款關係雜件 (一) 四九一

北京商務總會ノ發議ニ係ル五百万円借款返済資金調達方ニ關シ漢口商務總會ハ昨廿七日會議討論セシニ当地ハ革命事變ニ依リ非常ノ打撃ヲ受ケ商民一般ニ困難シ居ル際ナレハ到底多額ノ資金ヲ調達スルコト能ハサルニ付進シテ之カ主唱者タルコトヲ肯セサルモ若シ各地方ニ於テモ均シク其資金ヲ分担スルニ於テハ湖北省モ亦応分ノ援助ヲナスヘシト決議シタル由ナリ

北京へ転電セリ

四九〇 十一月一日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

興亜公司借款ニ關シ陳財政總長谷農商總長ノ彈劾案衆議院ニ提出ニ付報告ノ件

公第二四八号 (十一月十日接受)

大正五年十一月一日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

湖南選出衆議院議員郭人漳ハ賛成者七十余名ノ連署ヲ得興亜借款ニ關シ財政總長陳錦濤農商總長谷鍾秀ノ彈劾案ヲ提

右ハ何レ不日衆議院ノ日程ニ上リ總員四分ノ三以上ノ出席三分ノ二以上ノ同意ヲ得ハ通過ヲ見ルニ至ルヘク一旦通過ノ上ハ大總統ニ於テ一回丈ケ覆議セシムルコトヲ得ルノ外其職ヲ免セサルヲ得サル次第ニ候而シテ此種彈劾案ハ參議院ノ通過ヲ要スルヤ否ハ聊カ疑問ナルモ國務員ノ任命同意案ノ前例ニヨレハ当然參議院ノ通過ヲ要スルモノト解釈セラレ候

右不取敢御參考迄及報告候也

四九一 十一月四日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

陳財政總長ヨリ興亜公司代表者宛政治大借款成立セザルトキハ水口山太平山ニ對シ責任ヲ負ハザル旨聲明ノ件

第九六九号

十一月四日久原ノ代表三沢ヨリ興亜公司借款ニ關スル左ノ趣旨ノ中山宛陳財政總長十一月三日附書面ヲ当館ニ呈示セリ  
借款契約中乙ハ甲ヲ助クル為三箇月以内ニ大借款ヲ成立セシムル責任ヲ負フコトヲ規定シ又右成効セザルトキハ甲ハ

四三九

水口山太平山ノ鉱山ニ對シ責任ヲ免ルルコトヲ得トノ規定ナル処該契約ハ締結後二箇月ヲ經過シタルモ大借款ハ未ダ成立ノ見込立タズ就テハ期限ニ至リ右大借款愈々成立セザル節ハ支那政府ハ契約ニ照ラシ前記鉱山ニ對スル責任ヲ解除サルル次第ニ付此義予メ聲明ニ及ブ云々

就テハ關係ノ向キト御協議ノ上本使ノ執ルベキ措置ニ付何分ノ御電訓アリタク尚右ニ関連シ十一月四日ノ各漢字新聞ハ本件契約廢棄ニ關スル農商部ヨリ國務院及財政部宛公文ヲ發表セリ委細郵報

四九二 十一月四日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

中国農商部財政部ハ興亜公司借款契約ノ廢棄ヲ企画スルモノト認メラルル旨報告ノ件

附屬書一 興亜公司借款ニ關シ中国農商部ヨリ國務院宛及財政部宛公文  
二 陳財政總長ヨリ興亜公司中山宛書面写

機密第三一五号 (十一月十四日接受)

大正五年十一月四日

在支那

内ニ若シ此次ノ大借款不成功トナレハ甲ハ水口山及太平山ノ礦山事業ニ對シ責任ヲ免ルルヲ得ヘシトノ規定アリ該契約ハ五年九月九日ノ所訂ニテ現ニ將ニ二ヶ月ニ達セントスルモ大借款ノ一事ハ尚頭緒ナシ尙シ期限到達シテ大借款仍ホ成立セサレハ本政府ハ必ス該第三号附帶合同ニ照シ履行シ則チ本政府ハ水口山及太平山ノ礦山事業ニ對シテ応サニ即チ責任ヲ解除スヘシ特ニ茲ニ聲明ス云々右書面ノ大要ハ已ニ往電第九六九号電報ノ通りニテ前掲公文ト相對照スレハ農商部財政部ニ於テハ已ニ大借款ノ三ヶ月内ニ成立スルナキヲ予見シ附帶条件ノ如キハ有耶無耶ノ間ニ葬リ去ラントノ企画ナルコトハ尤モ明白ナル次第ニ有之候

右電報確認旁別紙相添及報告候也

(附屬書一)

興亜公司借款ニ關シ中国農商部ヨリ國務院宛及財政部宛公文

(民國五年十一月四日發行北京時報掲載)

院部咨令

◎農商部關於興亜公司契約之公文

(一) 咨呈國務院文

六 对中国借款關係雜件 (一) 四九二

特命全權公使男爵 林 樞 助(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

前キニ參議院ハ湖南安徽兩省公民呈出ノ興亜借款廢約力爭ノ請願書ヲ受理シテ之ヲ國務院ニ送付シ國務院ハ之ヲ主管ノ農商部ニ移牒シテ適當ノ措置ヲ採ランコトヲ求メタルニ農商部ハ一面之ヲ財政部ニ通報シテ原契約改廢案ノ起草辦法ヲ促シ一面國務院ニ回答スル所アリタル由ニテ十一月四日ノ北京各紙ハ

査スルニ日商興亜公司トノ借款ハ曾テ改訂ヲ議シタルモ未タ結果ナシ自ラ當ニ之ト統議シ務メテ廢約ヲ期スヘシ且ツ原契約ハ本ト期限アリ之ニ廢止条件ヲ付シアレハ假令改約就ラストスルモ原定ノ期限ヲ逾エ履行シ能ハサル時ハ条件モ亦廢止ヲ聲明シ得ヘシ

云々ナル公文ヲ掲出シ居リ農商部ニ突留メタル処右ハ全ク事實ニ有之尙久原代表三沢ヨリ陳財政總長ヨリ中山宛十一月三日附書面ヲ呈セル処右書面ニヨレハ

査スルニ本政府力前ニ貴公司ト商訂ノ前渡契約第三号ノ附帶契約第二条内ニ乙ハ甲ヲ助クル為現在商議中ノ大借款ヲ三ヶ月内ニ成立セシムル責任ヲ負フヘシ又其第三条

農商部為咨呈事接准公函内開准參議院咨開拋湖南安徽兩省公民先後以政府借款侵害該兩省鈔權請願力爭廢約經院受理掘情咨達要求廢約等因查此案屬財政農商兩部主管除分函財政部外相應照抄原送請願書三件函送貴部查照迅即擬具辦法咨送到院以憑議定轉咨等因到部查日商興亜公司借約曾議改訂未有結果自當与之統議務得廢約而止且原約本有期限附之廢止条件即使改約不就至逾原訂期限不克履行条件亦可聲明廢止茲准前因除咨由財政部主政迅具改廢原約妥善辦法仍隨時會商辦理外應先咨呈貴院察酌施行此咨呈國務院

(二) 咨財政部文

農商部為咨行事准國務院公函内開准參議院咨開拋湖南安徽兩省公民先後以政府借款侵害該兩省鈔權請願力爭廢約經院受理掘情咨達要求廢約等因查此案屬財政農商兩部主管除分函財政部外相應照抄原送請願書三件函送貴部查照迅即擬具辦法咨送到院以憑議定轉咨等因到部查日商興亜公司借款契約曾議改訂未有結果自當与之統議務得廢約而止且原約本有期限附之廢止条件即使改約不就至逾原訂期限不克履行条件亦可聲明廢止茲准函轉前因應請貴部主政

迅具改廢原約妥善辦法仍隨時會商辦理除另咨呈國務院外  
相應咨請查照施行此咨財政部

(附屬書二)

陳財政總長ヨリ興亜公司中山宛書面宛

逕啓者查本政府前与

貴公司商訂墊款合同第三号附帶合同第二条内載乙為助甲起見允負責任使現在商量中之大借款不成功甲對於水口山及太平山之礦山事業得免責任各等語該合同係五年九月九日所訂現在將屆兩月而大借款一事尚無頭緒倘期限屆滿大借款仍未成立本政府必按照該第三号附帶合同履行則本政府對於水口山及太平山之礦山事業應即解除責任特此先行聲明即希查照可也此頌

日社

陳錦濤啓

十一月三日

四九三 十一月十日

寺内兼任外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

水口山太平山ニ対シ責任ヲ負ハストノ陳財政

總長ノ声明ニ対シ興亜公司ハ絶對同意シ能ハ

ザル旨通告スベキ旨通報ノ件

第四四九号

貴電第九六九号ニ関シ今回支那側ヨリノ申出ハ或ハ我方ノ態度ニ探リヲ入ル、底意カトモ察セラル、処不取敢久原ヨリ三沢ニ電報シ興亜公司ハ支那政府ノ声明ニ対シ全然同意スル能ハサル旨ヲ簡單ニ通告セシムルコトニ取計ヒ置ケリ本件ニ対スル我方ノ見解ハ興亜公司カ附帶契約第二条ニヨリ政治大借款ヲ三ヶ月内ニ成立セシムルノ責任ヲ負ヒタルニ相違ナキモ元來該契約ハ支那側ニ於テ政治大借款ヲ正式ニ四国団ニ申込ム前予メ興亜ニ内協議シ其ノ助力ヲ求ムヘキ了解ノ下ニ締結セラレタルモノニシテ追テ支那政府ヨリ右ノ内協議アリタル上ハ興亜ハ之ニ応シ支那政府ノ為メ斡旋シテ大借款ヲ成立セシムルノ義務ヲ負ヒタル次第ナリ然ルニ支那政府ハ此ノ了解ヲ無視シ出シ抜ケニ四国団ト借款談ヲ開始シ興亜ニ対シテハ何等ノ内協議ヲナサス從テ興亜公司ニ借款速成ニ関スル責任アル斡旋ヲ試ムルノ機會ヲ与ヘサリシ為メ当然ノ結果トシテ興亜ハ第二条ノ責任ヲ免レタルモノト解スルノ外ナシ今回支那政府カ漫然三ヶ月内ニ借款成立ノ見込ナキヲ主張シ其ノ第三条ノ責任ヲ免レント

スルハ同公司ニ於テ絶對ニ同意スル能ハサル処ナリ右ノ趣旨ハ追テ興亜代表者ヲシテ重ネテ正式ニ書面ヲ以テ支那當國ニ通告セシムル所存ナルモ不取敢御參考マテ電報ス尚本件今後ノ処置振ニ関シテハ目下關係當局者并ニ久原側ト協議中ナルヲ以テ何分ノ義決定次第更ニ電報スヘシ

四九四 十一月十日

寺内兼任外務大臣ヨリ  
幣原外務次官宛(電報)

久原房之助ノ中国制錢精練事業計畫遂行ノ援

助方ニ関スル件

第一号

製鍊所ノ件ニ関シ本大臣離京ノ際迄ハ十分計畫ノ内容ヲ承知スルニ至ラサリシ処十一月八日京都ニテ久原ノ語ル所ニ依レハ該計畫ハ要スルニ支那側ニ於テ自ラ製鍊事業ヲ起シ之ヲ日本側ニ引受ケシメントスル仕組ニテ唯技術上ノ都合ニ依リ電氣分銅ノコト丈ハ日本ニ於テ行ハサルヘカラサルモ右ハ支那ニテハ出来難キニ付已ムヲ得ス日本ニテ行フト云フ迄ニテ制錢ノ輸出トハ全ク別問題ニ属スルニ付支那側ニテモ別段異議ナカルヘク將又久原ニテハ本計畫ヲ手始メトシテ其ノ緣故ニ因リ追々ニ制錢以外諸鉱石ノ製鍊事業等

六 对中国借款關係雜件 (一) 四九四 四九五

ヲ支那側ニ慫慂シテ有利ナル鉱山ニ關係ヲ附ケタキ考ナル由ナリ果シテ然ラバ本件計畫ハ之ヲ許可スルモ差支ナシト思考セラルル処右ニ関シ兩三日前久原代理者ヨリモ詳細大藏次官ニ内話致シアル由ニ付同官トモ御協議ノ上該計畫遂行ノ為援助ヲ与ヘラルル様致度シ

註 本電報ハ寺内兼任外務大臣ガ山口県下関市ヨリ発信セルモノナリ

四九五 十一月十三日

寺内外務兼任大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

興亜公司借款ニ関スル陳財政總長声明ニ対シ

同公司不同意ノ理由ニ関スル件

附 記 興亜公司代表者ヨリ陳財政總長宛書面案

第四五三号

往電第四四九号ニ関シ興亜側ニ於テハ支那側ノ声明ニ不同意ナル理由トシテ同電記載ノ趣旨ヲ主張スル外別ニ先ニ久原ヨリ三沢ニ宛テタル電報ノ如ク条文解釈上ヨリモ抗弁シタキ趣申出デタルニ付差支ナキ旨回答シ置キタリ右可然御含置相成タシ

(附 記)

六 对中国借款關係雜件 (一) 四九五

興亜公司代表者ヨリ陳財政總長宛書面案

拜啓拾壹月參日付貴翰拜誦致候

九月九日付実業借款第參号附帶契約第貳条ハ貴国政府ニ於テ政治大借款ヲ正式ニ關係国銀行団ニ申込マルル以前ニ予メ先ヅ之ニ関スル協議ヲ弊公司ニ試ミ其助力ヲ求メラルベキ了解ノ下ニ締結セラレタルモノニシテ弊公司ハ貴国政府ヨリ右ノ協議ニ接シタル時ハ則チ之ニ応ジ貴国政府ノ為ニ斡旋シテ政治大借款ヲ成立セシムルノ義務ヲ負ヒタル儀ニ候然ルニ貴国政府ハ曩ニ此了解ヲ無視シ突然關係国銀行団ニ対シ正式ニ借款談ヲ開始セラレ弊公司ニ対シテ何等協議ヲ試ミラレズ借款成立ニ関シ斡旋スルノ機会ヲ弊公司ニ与ヘラレザリシ為当然ノ結果トシテ弊公司ハ前記契約ノ責任ヲ免レタルモノト解スルノ他ナシ貴国政府ニシテ此ノ如ク契約上ノ了解ヲ無視シ弊公司ヲシテ契約規定ノ責任ヲ尽ス能ハザルニ至ラシメナガラ今次却テ貴国政府ニ於テ其当然ノ責務ヲ免レントスル旨ノ声明ヲナサレタルハ弊公司ノ甚ダ意外トスル処ニシテ断ジテ認諾スル能ハザル処ニ有之候元來第三号附帶契約第三条ハ政治大借款不成功ニ関シ何等ノ期限ヲ定メ居ラズ第貳条ノ規定トハ全然關涉スル処無キ

テ久原ヨリ相談アリタルニ付末段括弧内ヲ削除シ承認ヲ与ヘタリ

四九六 十一月十四日

寺内兼任外務大臣ヨリ  
幣原外務次官宛(電報)

興亜公司借款ノ有利且合理的の後始末策案出方

二 関スル件

別 電 同日寺内兼任外務大臣ヨリ幣原外務次官宛電報

第六号

十一月十一日勝田大藏次官宛寺内兼任外務大臣

宛電報転電

第五号

往電第一号ニ関シ大藏次官ヨリ別電第六号ノ通り來電ニ接シタル処往電第一号所載本大臣ノ考ハ本計畫ハ支那側ノ反对ヲ受クルコトナカルヘシトノ久原ノ意見ヲ前提トセルモノナレハ若シ支那ニ反对アリトセハ本計畫ヲ実行スルコト面白カラサルハ勿論ナリ去リトテ此ノ儘ニ打棄テ置クニ於テハ久原ヲシテ見ス見ス三十万円ノ資金ヲ放擲セシムルコトトナリ右ハ久原カ好意的ニ興亜借款ヲ引受ケタル成行ニ願ミ結局已ムヲ得サル場合ハ致方ナシトスルモ政府トシテハ幾分久原ニ同情ヲ寄スヘキ立場ニ在リ將又曩ニ貸付ケタ

六 对中国借款關係雜件 (一) 四九六

四四四

モノナリ而シテ弊公司ノ承知スル処ニ依レバ此次ノ政治大借款ノ事ハ貴国政府ノ所謂頭緒ナキモノニハ無之現ニ關係国銀行団ニ於テ協議中ニ属スルモノニシテ其成功不成功ハ未ダ孰レトモ予定シ難キモノト信ジ候從テ貴国政府ニ於テ今日漫然責任解除ノ声明ヲセラルルハ其意ノ何レニアルヲ解スル能ハズ候(同契約第五条ニ依レバ契約調印ノ日ヨリ起算シ六ヶ月ヲ経過スルモ政治大借款成立セザル場合ニハ貴国政府ハ相当ノ財源ヲ提供シテ該借款ノ担保ニ充テラルル事トナリ居ルニ就テハ少クトモ其場合ノ到達スルマデハ現ニ該借款ノ保証トナレル) 貴国政府ノ責務ハ貴国政府決シテ之ヲ免ルル能ハザルモノナル事明白ニ有之候前記ノ次第篤ト御考量ノ上更ニ御詮議相成候様希望致候右貴答ヲ兼ネ得貴意候 敬具

年 月 日

大日本帝國興亜公司代表 中山説太郎

大中華民國財政總長 陳錦濤殿

(欄外註記)

一、「十一月十三日久原秘書沢本氏提出」

二、「水口山太平山鉱山ニ対スル責任解除ニ関スル支那側声明ニ対シ興亜公司ノ名ヲ以テ本案ノ通り回答提出致度シト

ル四百七十万円ノ始末モ此ノ儘ニテハ將來尠ナカラサル困難ニ遭遇スルニ難カラス要ハ如何ニシテ興亜借款ノ後始末ヲ最モ有利ニ且合理的ニ付クルヤニアル義ト思考セラルルニ付本電ノ次第大藏次官ニ御伝ノ上此ノ上トモ同次官并ニ久原側トモ御協議ノ上何等カ適當ナル解決方法ヲ案出スル様致シタク、要スレハ同次官來電末段ノ通林公使ノ意見ヲモ微シ今後ノ方針篤ト研究スルコトト致シタク

註 本電及別電第六号ハ福岡市ヨリノ發電ナリ

(別 電)

十一月十四日寺内兼任外務大臣宛幣原外務次官宛電報

十一月十一日勝田大藏次官宛寺内兼任外務大臣宛電報転電

第六号

十一月十一日大藏次官宛寺内大臣宛電報

外務次官ヘノ貴電拝承久原ノ立場ハ同情スベキモ制錢ハ支那地方ニ於テ大反対アルモノ林公使モ亦嘗テ水口太平兩礦山ヨリ一層紛糾ヲ來スベシトノ意見アレバ面白カラズト存ズ尤モ支那政府ニ於テ銅貨改鑄ノ目的ヲ以テ的確ナル計畫ヲ立テ久原個人トシテ之ニ關係スルコトハ可ナルベキモ元來興亜公司借款ナルモノハ今や世間疑惑ノ中心トナレルモ

四四五

ノニテ前内閣ハ之ニ巨額ノ国資ヲ投下セルハ担保ガ永久ノ利益ヲ生ズベキ礦山ニシテ之ガ外人ノ手ニ渡ラバ由々敷大事ナレバナリト弁解ニ力メツアリ然ルニ現政府ガ仮令此ノ借款始末ノ為メトハ云ヘ一会社一時ノ事業ノ為メニスル利権ヲ以テ担保トスルコトトセバ本件ガ議會問題トナリタル場合何レノ党派ヨリモ攻撃ノ材料トナルベキ虞アリ政府ノ不利此上ナシト信ズ依ツテ本件ヲ強ヒテ貴見ノ如ク実行サレントナラバ尚一応制錢ニ付林公使ノ意見ヲ聞カレ御帰京ノ上政府ニ於テモ慎重御詮議アリテ決行セラレシコト切望ニ堪ヘズ

四九七 十一月十五日

寺内兼任外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

興亜公司借款ノ条件トシテ制錢製鍊事業ヲ引

受クル案ニ付林公使ノ意見問合ノ件

第四五九号

往電第四四九号末段ニ関シ水口山及太平山ノ鉱山事業ニ対スル契約面ノ權利ヲ実行スルコトハ議會及地方団体ニ於ケル反対ノ状態ニ顧ミ到底成功困難ト認メラルルニ付本件ハ一方ニ於テ契約上ノ權利トシテハ之ヲ留保シ置クト共ニ他

方針ニ依リ改訂ノ目的ヲ達スル様工夫スル外致方ナカルヘシト史料ス

四九八 十一月十七日

在漢口瀨川總領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

漢口在住安徽出身商民団体ノ興亜公司借款反

對運動ニ関シ報告ノ件

第三二四号

当館謀報者ノ報告

漢口在住ノ安徽出身商民団体ハ本月十五日大会合ヲ催フシテ興亜公司五百万円借款反対ノ決議ヲナシ之カ実行方法トシテ安慶ニ於テ百五十万円北京漢口上海ノ三ヶ処ニテ三百五十万円ヲ募集シ之ヲ政府ニ提供シテ該借款契約ノ破棄ヲ要請スルコトニ協議ヲ纏メ近ク代表者王國鐸ヲ上京セシムル筈ナリト

北京へ転電セリ

五〇〇 十一月二十一日

在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛

中国政府興亜公司間ノ制錢製鍊契約ニ関スル

中国衆議院ノ質疑応答ニ付報告ノ件

六 对中国借款關係雜件 (一) 四九七 五〇〇

ノ一方ニ於テ先方ヨリ本件ノ代案トシテ申出テタル制錢製鍊事業ノ交渉ヲ繼續セシムルコトトシ度シ但シ制錢製鍊ノ件モ既ニ輿論ノ反対アリ議會ノ問題トモナリタル次第ニ付折角支那当局ト我当業者間ニ協議纏マルトモ再ヒ議會ノ反対ニ遇フカ如キコトアリテハ面白カラサルニ付久原則ニ於テ此上トモ内々張繼等ト十分渡リヲ付愈々契約ヲ議會ニ提出スルトモ之カ通過ノ見込確實ナルヲ彼等ニ於テ請合フニ至テ初メテ改訂契約書ニ調印シ鉱山事業ニ関スル現契約上ノ權利ノ留保ヲ解クコトトシテハ如何カト思考ス其ノ辺ニ対スル貴官ノ御意見一応承知シ置度シ

四九八 十一月十六日

在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ノ条件トシテ制錢製鍊事業ヲ引

受クル案ニ付意見回申ノ件

第一〇〇九号

貴電第四五九号ニ関シ目下国会ハ混沌タル有様ナルヲ以テ張繼等ノ手ニテ纏マリヲ附ケ得ルヤ疑問ナルモ本件行詰リノ今日如何ニ關係者ニ於テ焦慮<sup>アセ</sup>ルモ到底有利ノ条件ヲ以テ改訂ヲ為スコト覚束ナシト認メラル、ニ付兎ニ角御来示ノ

公第二八五号

(十一月二十九日接受)

大正五年十一月二十一日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

支那政府ト我カ興亜公司トノ制錢收買契約ノ關係ニ付キ衆議院議員王謝家ハ(一)小民生計ノ關係(二)國權喪辱(三)大利ノ外溢(四)外交ノ危機(五)借款ノ障礙ナル五ヶ条ノ理由ヲ縷説シテ反対ヲ表明シ政府ニ質問スル処アリシカ國務院右ニ対シ大要左ノ如キ答弁ヲ為セリ

一、幣制整理ノ計画、財政部ノ幣制整理弁法ハ一面ニ銀貨ヲ鑄造シテ補助貨幣トシ一面ニハ各地方ノ金融狀況ニヨリ數種ノ銅貨ヲ鑄造シテ補助貨幣トシテ銀貨銅貨共ニ二十進法ニヨルヘク前清時代ノ制錢ハ当然收回シテ補助貨ニ改鑄スヘキ筈ナリ此実行ハ可成迅速ヲ期スルニヨリ若シ制錢ト銅貨ト併行セハ其間自然開キヲ生スルノ弊アルノミナラス現在ノ制錢ハ其大小厚薄輕重不同ナルヲ以テ速ニ改鑄ノ要アリ故ニ收買改鑄ハ今日幣制ノ統一維持上惟一ノ辦法ナリ日本人ト合辦ノ理由ハ次項ニ之ヲ述ヘン

二、煉銅ノ利益ト合辦ノ理由、制錢ノ收買ハ每一千斤銀百二十五元五十仙ヲ要シ外ニ鉛ノ鑄出費七十元紫銅ノ鑄出費三十元局用經費一元六十三仙ナレハ黃銅ノ煉出ニハ百九十七元十仙紫銅ノ煉出ニハ二百二十七元十仙ノ資本ヲ要スル次第ナルモ鑄出ノ鉛ハ二百二十斤ニテ一担價格六十元トシテ約百三十元黃銅每担三十五元計約二百三十八元紫銅每担六十元計約二百七十六元ナリ以上ノ如ク制錢ヨリ白鉛ヲ鑄出シテ紫銅ヲ煉成スルモノト兩方合計スレハ四百〇八元トナリ故ニ制錢ヨリ鉛ヲ鑄出シテ黃銅ヲ煉成スレハ資本ヲ引去リ百七十二元九十仙ノ利益トナリ紫銅ヲ煉成スレハ百八十元九十仙ノ利益トナルモ實問書ニ五倍ノ利益トハ誤伝ナラン現ニ政府ハ鍊銅廠造幣廠ヲシテ速ニ收買改鑄セシメントスルハ或ハ奸商ノ外人ト結托スル等弊害ヲ免レントスルカ為ナリ興亜借款ニ関シ日本人トノ議ハ政府ニ於テ審慎計議シタル処ニ係ル蓋シ我國ノ借款ハ利益ヲ条件トセサレハ成効シカタク特別ノ利權ヲ担保トスルヨリハ他人ノ資本ヲ以テ我國ノ制錢ヲ收買改鑄シ幣制ノ統一ヲ計ルコト有利ニテ且ツ噸數ヲ制限シ時期ヲ制限シ日本側ニ幾分ノ利益ヲ分与セントスルニ在

本信写送付先 天津總領事、濟南領事

五〇一 十二月三日 在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

興亜公司借款ニ付中国側ヨリ印紙稅ヲ担保ト  
シ別ニ制錢鍊銅会社ヲ設立スル新契約案ヲ提出ノ件

第一〇八七号

予テ御訓示ノ趣旨ニ基キ興亜借款ノ件ニ付久原代表者ヨリ支那側ニ対シ交渉ヲ遂ケ居リタル処今回支那側ヨリ右借款契約中ノ担保ニ関スル規定ヲ變更シテ印紙稅ヲ担保トスルコトトナシ又制錢問題ニ就テハ別ニ鍊銅会社ヲ設立スルコトトナスノ二点ヲ骨子トセル新契約案ヲ提出シ来リタル処尚不十分ノ点ナキニアラサルモ兎ニ角之ヲ基礎トシテ交渉ヲ進ムルニハ差支ナシト思考セラルルニ付新契約案概要久原ヨリ御取寄ノ上至急關係ノ向トモ御協議相成リタシ

五〇二 十二月十二日 在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

制錢鍊銅問題中国側トノ交渉纏リ兼ヌル形勢  
ニ付此際陳財政總長ノ責任回避聲明ニ対シ不  
六 对中国借款關係雜件 (一) 五〇一 五〇二 五〇三

ルモ制錢買収ノ事ハ政府ヨリ員ヲ派シ辦理セシメ日本人ニハ参与セシメサル筈ナリ  
三、收錢計畫範圍、政府ノ計畫ハ全国ヲ範圍トシ制錢ノ收尽ヲ限度トスルニ在リテ質問ノ如ク山東山西陝西河南等ニ限ルニ非ス但シ東南各省ニテハ制錢ヲ私鑄シ尽シテ残ス所幾干モナク故ニ先ツ北方ノ各省ヨリ着手セントスルノミ又幣制ノ統一上補助貨ヲ多ク流通セハ制錢ハ当然存在スヘカラサルハ勿論ニテ政府此次ノ計畫タル單ニ利益ノ見地ヨリノミニアラス又實ニ幣制統一ノ見地ヨリスルナリ要スルニ銅價日ニ昂リ私鑄日ニ多ケレハ制錢ハ自ラ存在ノ理ナク現ニ外人カ制錢買入ノ為メ種々ノ交渉案件ヲ続出シ居ルノ有様故ニ政府ハ自ラ收回改鑄シ別ニ正当ノ補助貨ヲ出シ制錢ノ紊乱ヲ整理セントスルナリ外債ヲ借用スルヤ否ハ政府ニ於テ未決議ナルモ制錢收回ノ事トハ自ラ別事ニテ借款ノ事故ニ制錢收買ノ事ヲ防碍シ得サルハ勿論ナリ  
右ハ支那政府ノ關スル限り興亜トノ制錢契約ヲ支持実行セントノ意思ヲ表明シタルモノニ有之候  
右及報告候也

同意ノ旨抗弁スルコトニ関シ請訓ノ件

第一一二四号

往電第一〇八七号ニ関シ久原ヨリ御取寄セノ支那政府申出ノ新案ニテ御承知相成リタル通り興亜借款ハ制錢問題ト區別シテ協議シタキ支那側ノ意見ナルヨリ久原代表者ニ於テモ先以テ制錢問題ヲ議了スル方然ルヘシト認メ右ニ付支那側ト商議ヲ進メタル処到底折合付キ兼ヌル形勢ナルヲ以テ貴電第四五三号ノ条文解釈上ノ抗弁ヲ省略シ單ニ貴電第四四九号御来示趣旨ノ抗弁ノミヲ書面ニ認メ財政總長ニ送付シタキ旨申出タリ貴電第四五九号議會ニ附議ノ問題尚起ラサルニ当リ既ニ政府トノ協議纏マリ兼ヌルハ甚タ遺憾ノ至ナルモ兎ニ角一応右書面ヲ提出シテ局面ノ展開ヲ催スモ一方法ト思考セラルルニ付テハ中山モ既ニ帰朝シタルコトニモ有之一応久原側其他關係ノ向トモ御協議ノ上何分ノ御電訓アリタシ

五〇三 十二月十三日 在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛

中国政府ハ興亜借款契約後三ヶ月ニシテ大借  
款未成立ニ付水口山太平山ニ対スル責任解除

トナレル旨国会ニ咨文送付ノ件

附屬書 右咨文訳文

公第三一一号

(十二月二十三日接受)

大正五年十二月十三日

在支那

特命全權公使男爵 林 権 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

興亜五百万円借款ハ十二月九日ヲ以テ調印後満三ヶ月トナリタルニ不拘大借款成立セサルニ願ミ原契約第三号附帯条件ノ水口山太平山礦山問題ハ当然失効解除セラレタルモノナリトノ見地ヨリ衆議院議員ヨリ右ニ関シ興亜側ニ対シ声明通告スル処アリタリヤトノ督促的質問ヲ発スルモノアリシカ政府ヨリ国会ニ対シ遂ニ別紙ノ如ク興亜ニ対スル支那政府ノ礦山問題責任ハ当然解除セラレタルモノナリトノ咨文ヲ送付シタル趣ニ有之候  
右為御参考及報告候也

(附屬書)

政府ヨリ国会ニ送リタル咨文訳文

(興亜五百万円借款ノ件)

総長ニ提出セシメラレ差支ナシ右久原側並關係ノ向トモ協議済ミ

五〇五 十二月十七日

在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

制錢製鍊問題ニ関シ中国側ノ態度硬化ノ理由

ニ付報告ノ件

第一一五一号

往電第一一二四号中結局打合セ付兼ヌル云々ノ一項ニ付久原代表ニ対シ殷汝驪ノ内密ニ語リタル所ニ依レハ当時「ジエンクス」ヨリ陳錦濤ニ対シ支那ガ幣制改革ノ為メ制錢問題ヲ解決セントスルコトアラバ米國ハ資金ヲ供給スルニ躊躇セザル旨ノ來電アリタル趣ニテ陳カ本問題ノ交渉半パニシテ急ニ強硬ノ態度ニ出ヅルニ至リタルハ蓋シ右ノ事情ニ依ルニアラズヤト思考ス

五〇六 十二月二十六日

在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

水口山産出鉱物ヲ担保トスル湖南省借款計画

ト興亜公司借款トノ關係ニ付意見稟申ノ件

第一一七六号

六 对中国借款關係雜件 (一) 五〇五 五〇六

査スルニ興亜公司前渡シ五百万円ノ件原契約第三号附帯契約第二条内ニ乙ハ甲ヲ助クル見地ヨリ現在商議中ノ大借款ハ三ヶ月内ニ成立スルコトノ責任ヲ負フヘキ旨ヲ記載シ又其第三条内ニ若シ此度ノ大借款不成功トナレハ甲ハ水口山及太平山ノ礦山事業ニ対スル責任ヲ免ルヘシトノ規定アリ該契約ハ五年九月九日ノ調印ナレハ十二月九日ヲ以テ三ヶ月満期トナルニ大借款ノ一事ハ尚端緒サヘナク該公司モ亦今迄何等ノ責任ヲ負ハサレハ契約第三号附帯契約二三兩条ノ規定ニ照ラシ支那政府ハ水口山及太平山礦山事業ニ対シテハ当然責任解除トナリ已ニ財政部ヨリ興亜公司ニ向ヒ声明シ財政部ヨリ別ニ相当ノ担保品ヲ提供シテ該公司ト協議ノ上別案トシテ交附議決ヲ求ムヘク此段咨達ス云々

五〇四 十二月十五日

本野外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

陳財政総長ノ責任回避ノ声明ニ対シ興亜公司

ヨリ此際抗弁セシメラ差支無キ旨回訓ノ件

第五〇九号

貴電第一一二四号ニ関シ御申越ノ通此際条文解釈上ノ抗弁ヲ省キ往電第四四九号ノ趣旨ノ抗弁ノミヲ書面ニ認メ財政

在長沙領事宛貴電第二六号ニ関シ水口山カ湖南省有タル關係上堺電報ノ如ク省長、省議會等ニ於テ鉱物ヲ担保トシ借款ヲ為スコトニ異存ナシトセハ条件ノ苛刻ナラサル限り中央ニ於テ強テ反対セサルヘキカト思料ス尤興亜公司ハ曩ニ中央政府ヨリ水口山合辦經營ノ權利ヲ得居リ右權利ノ存否ニ付目下兩者相争ヒ居ル關係モアリ仮令鉱物担保ニセヨ同一ノ鉱山ニ対シ他ノ資本家ニ於テ新ニ關係ヲ結フコトハ理論上ヨリセハ興亜ニ於テ故障ヲ唱ヘ得ル次第故此ノ点ヲ考慮ニ入レ久原ヲ本借款ニ参加セシメラテ前記ノ關係ヲ調和シ尚他日万一中央ニ於テ本借款ニ反対起リタル場合ニハ興亜借款ヲ支那政府希望通り書換ヘ整理スルコトニ同意シ之ト交換的ニ本借款ノ成立ヲ計ルコト鍊銅廠合辦問題殆ト望ナキ現状ニ願ミ或ハ一策カト存ス將又本邦資本家ニ於テ斯ル問題ノ起ル毎ニ無益ノ競争ヲ為シ其結果不利益ナル事態ヲ生スルコト從來屢々見ル所ナルニ付今回ハ本省ニ於テ堺意見ノ通篤ト各本社ヲ説得セラレ彼等ヲシテ歩調ヲ整ヘシムルコト必要ト認ム  
長沙ヘ転電セリ

五〇七 十二月二十九日 在中國林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

陳財政總長久原代表間ノ制錢製鍊ニ関スル商  
議不調及興亜公司ヨリ陳總長ニ抗弁書提出ニ  
付報告ノ件

別 電 同日林公使發本野外務大臣宛電報第一一八六号  
財政部及保利公司間借款契約並鍊銅契約ノ要旨  
第一一八五号

往電第一一二四号ニ関シ抗弁書ハ其後早速提出シ次テ本使  
ヨリ陳錦濤ニ対シ鍊銅問題ニ付妥協方ヲ勸告スル手筈ナリ  
シ処先般商議ノ折合付キ兼ネタルハ陳カ久原代表者ニ対シ  
段總理ニ於テハ同代表者ニ於テ尚強硬ト認ムル陳ノ案ニ対  
シテスラ軟説トシテ不同意ヲ唱フル旨ヲ伝ヘタルニ依ルモ  
ノナルヲ以テ念ノ為メ同代表者ヨリ坂西ノ手ヲ經テ陸軍次  
長ニ依頼シ段ノ意嚮ヲ確メタル処段ハ陳ニ対シ可否何レト  
モ明言シタル次第ニアラスシテ陳ノ所言信用シ難キ節アル  
コトヲ発見シタル為更ニ同次長ヲ經テ支那側ノ内情ヲ探ル  
ノ必要生シ其結果右内探終了ノ節迄抗弁書ノ提出ヲ見合セ  
度キ旨申出テタルニ付承認ヲ与ヘ置キタル処右内探中同次  
長ヨリ財政部ニ於テハ全国商務總會ヨリ政府ニ五百萬元ヲ

貸シ上ケ其代償トシテ鍊銅事業ヲ引キ受クルノ計画ヲ詮議  
中ナル趣ヲ承知シ久原代表者ニ於テモ此ノ上遷延シ難キモ  
ノト認メ則チ十二月二十七日興亜公司代表者ノ資格ヲ以テ  
遂ニ抗弁書ヲ先方ニ送付シタリ次テ同日本使ハ船津ヲ財政  
次長ニ遣ハシ妥協ノ勸告ヲナサシメタル処同次長ハ既ニ財  
政部ト保利公司ナルモノトノ間ニ借款契約並ニ鍊銅契約締  
結セラレ久原トノ商議ヲ要セサルニ至リタル旨ヲ申出テ妥  
協ノ勸告モ無効ニ終リタル次第ナルカ熟ラ前後ノ成行ヲ顧  
ミルニ陳ニ於テハ最初ヨリ誠意ナク久原トノ交渉ヲ故意ニ  
行詰ラシメタル上保利公司ヨリ五百萬元ヲ借受ケ其代償ト  
シテ同公司ニ鍊銅事業ヲ受負ハシメタルモノニシテ少クモ  
德義上不信ノ所為タル事勿論ナリ本使ニ於テハ陳ニ対シ久  
原トノ間ニ於ケル鍊銅ノ商議ニ関シ可成互讓ノ精神ヲ以テ  
妥協ヲ遂クル様勸告スル所存ナリシモ抗弁書提出前ニ勸告  
ヲ試ミ先方ニ於テ之ヲ容レサル場合ニ抗弁書ヲ提出スル事  
ハ彼我ノ間ニ於ケル溝渠ヲシテ益々大ナラシメ再ヒ話合ヲ  
ナシ難キ羽目トナルノ虞アルヲ以テ特ニ抗弁書提出後トナ  
シタル処久原代表ヨリ抗弁書ノ提出方追々遷延シタル為右  
勸告モ從テ遷延シタル次第ナルカ今ニ至リテ之ヲ考フルニ

陳カ一方ニ保利公司トノ話ヲ進メツ、アリタル以上假令数  
日間早メニ右勸告ヲナシタルニセヨ同シク何等効果ナカリ  
シハ明白ナリ右ノ次第ニ付今日ニ於テハ鍊銅問題ハ結局之  
ヲ断念シタル上陳ニ対シテハ抗弁書ヲ楯トシテ嚴重談判ヲ  
遂ケ先方ニ於テ飽ク迄興亜ノ担保權ヲ認メサルニ於テハ速  
ニ鍊銅事業ニ代ルヘキ他ノ適當ナル事業ヲ提供セシムル様  
交渉ヲ試ミルヨリ致方ナシト思考ス將又保利公司ニ関シテ  
ハ尚詳細ノ事項ヲ承知セサルモ商務總會側ニ於テ別電ニ契  
約締結ノ為メ便宜之ヲ設ケタルモノニ相違ナク且同公司ト  
シテハ一千万元ノ巨額ヲ融通シ得ヘキ筈モ之レ無キニ付畢  
竟陳ノ細工ト認ムルノ外ナカルヘシト思考ス尚新聞紙ニヨ  
リ發表セラレタル財政部ト同公司トノ借款契約及鍊銅契約  
ハ委細郵報スヘキモ要旨ハ別電一一八六号ノ通り

(別 電)

十二月二十九日林公使發本野外務大臣宛電報  
財政部及保利公司間借款契約並鍊銅契約ノ要旨

第一一八六号

(-)財政部保利公司トノ借款契約要旨左ノ通

本部ハ公司ヨリ五百萬元ヲ借入ル借款手取九十四、利子  
六 对中国借款關係雜件 (二) 五〇八

二 交通銀行借款

五〇八 五月二十一日 石井外務大臣ヨリ  
在中國日置公使宛(電報)

交通銀行ヲ日中合辦トナシタキ旨ノ同銀行總  
理梁士詒申出ニ関シ問合ノ件

六分契約調印ノ日ヨリ十五日以内二百五十萬元後十五日  
以内二百萬元後一ヶ月以内二百二十五萬元後一ヶ月以内  
二百二十五萬元ヲ交付ス、担保、国庫債券、期限四年、  
国会通過ノ日ヨリ効力ヲ生ス  
(-)財政部ト保利公司トノ鍊銅契約要旨左ノ通  
本部ハ本公司ニ国内ノ制錢ヲ收鍊スルノ權利ヲ特許ス、  
期限四年、鍊銅ノ資本五百萬元トス鍊銅ノ利益ハ一切ノ  
支出ヲ引去リテ之ヲ十五分シ本部ハ五分ヲ得ベク收錢ノ  
各省ハ三分ヲ得本公司ハ七分ヲ得ルコト本公司ニ督辦一  
名ヲ置キ公司一切ノ事宜ヲ監督稽查セシム董事七人乃至  
九人ヲ設ケ其内二人ハ本部ヨリ選派シ其他ハ公司株主ヨ  
リ公舉ス、国会通過ノ日ヨリ効力ヲ生ス